

別冊「参考資料」

- 1 意見交換会の結果
- 2 意見募集の結果（概要）
- 3 人流データ分析結果（概要）



1 意見交換会の結果

2

(1) 意見交換会（ワークショップ形式）の概要

(1) 開催時期：令和6年10月18日～令和6年11月16日

(2) 対 象：中央地域、東部地域、南部地域、若者・女性

※北部地域は、三重地区連合自治会、琴海地区地域コミュニティ連合協議会（役員）、三重地区地域コミュニティ連絡協議会と意見交換を実施。

(3) 意見交換会の内容：

- 班ごとにテーマ（広域連携、都心部、地域拠点・生活地区、斜面地）を選択（※テーマを選択せず議論することも可能）
- 班ごとに、「現状」、経済再生・定住人口増加を目指していくための「将来のまちの姿」、③「取り組み内容」の3ステップで議論

(2) 参加人数

中央地域 (1回目)	中央地域 (2回目)	東部地域	南部地域	若者・女性	合計
14名	13名	15名	5名	22名	69名

(3) 班ごとの選択テーマ

班	中央地域 (1回目)	中央地域 (2回目)	東部地域	南部地域	若者・女性
1班	斜面地	都心部	地域拠点・生活地区	地域拠点・生活地区	長崎市全体
2班	都心部	長崎市全体	広域連携、生活地区		都心部、斜面地
3班	身の回りを再編集 (都心部を生活拠点と しているスタンスで)	長崎市全体	地域拠点・生活地区		都心部
4班					あらゆる属性の人が 安心して生活できる まち
5班					長崎の品質を高める

(4) 意見交換会の結果

中央地域（1回目）

1 班（選択テーマ：斜面地）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

<p>現 状</p>	<p>空き地・空き家</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家が増加し、景観や治安が悪化 ● 高齢化が進み、これからも空き家が増加 ● 倒壊の危険性がある空き家があり周辺住民が不安に ● 個々の空き家が解体され、引いて見るとすきっ歯のような風景 ● 空き家はあるのが住む家がない ● 古い家が多く、シロアリ・ハネアリが多い ● 相続したがならない、相続者がどんどん増えて手続きが難しくなる <p>生活利便施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すてきなカフェが多い ● 下に行かないと食料が手に入らないため、買い物弱者対策や災害時の対応をどうするか <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 斜面地だけど路面電車に近く、少し歩けば色々な所へ行ける ● バスが来る頻度が斜面地付近は少ない、バスの遅延もある <p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 坂道の上り下りは、健康維持につながる ● とにかく昇り降りが大変 ● 車が通らない場所がある、緊急時の道路がない ● 道がダンジョン（迷路）のよう <p>コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地価が安い <p>住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 見晴らしがよい ● 静かな環境 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場がない ● 昔ながらのものが残っている ● 若者がいない、若者が住みたがらない ● 高齢者が多い、離れたくない ● 斜面地の高齢者が平坦地に引越している ● 斜面地の今後のインフラ（電気・水道など）管理が困難に 	
<p>将 来 の ま ち の 姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が空き家に住むまち ● 学生が斜面地に住みやすいまち ● 体力がある人、若い人が斜面地で安く、便利に住むまち ● 地域の人たちで支え合えるまち（学生も巻き込んで） ● 安全に暮らせるまち ● 山の上から長崎を見下ろしながらこれからの長崎を考えるまち ● 斜面を活かした健康づくりができるまち ● 空き家・空き地を活用したい ● 旧魚の町団地のようなチャレンジする場 ● 良い景色を眺められるような公園やお店、観光展望スペースがあるまち ● 坂の上の歴史を大事にし、歴史的な建物などを活用するまち 	
<p>取 り 組 み</p>	<p>空き地・空き家</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家を解体すると優遇措置が受けられる、空き家の税対策（リノベーション） ● 放置家を更地にする補助（壊したくなる制度） ● 公的機関によるリノベーション ● 斜面地の空き地活用（コミュニティガーデン、ごみ処理しやすいようにコンポスト化） ● 公による居住誘導（高齢者、若者） <p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車道整備、斜面にエレベーターを整備 ● 昇りの途中に、子どもから若者、お年寄りまで集うような休憩所を多く作る <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 斜面地に住んでいても都心部に行きやすいような移動手段の確立 <p>生活利便施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ドローンによる宅配、移動販売車 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インフラ整備の民間企業の実験場の提供 ● ●●が集まるまち（モデル地域） ● 太陽光による照明（観光） 	



1 意見交換会の結果

4

中央地域（1回目）

2班（選択テーマ：都心部）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現
状

生活便利施設

- 浜町の店舗が大型商業施設に移転
- シャッターを閉めている店舗が増加
- 路面店が減少
- 夜遅くまで開いている店舗、フリースペースがない
- 浜町の医療ビルに高齢者が並んでいる

場・憩い

- 人が自然と集う場所がない
- 文化・芸術などを共有する場や披露する場所が少ない
- 屋根がある公園がない

道路

- 限られた道路幅員の中、手入れされていない花壇等があり、歩道が狭くなっている

観光

- クルーズ観光客が地面に座っている

コスト

- 家賃が高い

人

- まちづくりに関心がある人が少なくなっている気がする

その他

- 長崎市は平和が象徴的なまち

将来のまちの姿

- 浜町を若者タウン、子育てタウン、シニアタウンにする
- 世代を超えてつながりがあるまち
- いろんな世代が過ごしやすい公園があるまち
- 原爆資料館だけでなく、市の至るところで平和について考えられるまち
- 働き方が多様化している中で、夜でも自分の時間が持てる活動がしやすいまち
- 家賃が安いまち

取
組
み

場・憩い

- 民間の空き地等を暫定利用し、世代間のつながりができるフリースペースや外国人観光客が休憩できる空間（市内観光地を紹介するゾーンも併設）をつくる
- エンタメを享受できるフリースペースをつくる
- 学生が集まりやすい新大工商店街に文化・芸術が発信できる場をつくる
- 公園に屋根をつくる（水辺の森公園や県庁舎跡地）

道路

- 主要な歩行者動線に屋根を整備し、雨に濡れない動線をつくる
- 歩きやすい過ごしやすい道路空間に再編する
- 国道34号（歴史文化博物館～県美術館）を文化の通りとする

その他

- スマホが充電できる場やFreeWiFiの設備の整備
- 浜町に大規模駐車場をつくる
- 平和を五感で感じられる取り組み（アウシュビッツではダークツーリズムの取組）
- 人にやさしいまちづくり
- 上手く情報が伝わっていないため、情報発信の仕組みをつくる
- イルミネーションの整備



1 意見交換会の結果

5

中央地域（1回目）

3班（選択テーマ：身の回りを再編集（都心部を生活拠点としているスタンスで）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状

地域資源

- 海と山が近く景色がいい
- 街並みから歴史を感じられるが、その歴史が失われつつある

生活利便施設

- 歩いて楽しく徒歩圏内で日常の生活は事足りる
- 中心部でお店の種類が少なく、特に書店が少ない
- 日曜日休みのお店が多い

公共交通

- 路面電車が便利
- 街中から郊外へ行く公共交通が少ない。市外（県外）に行くとき便数が少なかったり、乗り換えが多く不便

道路

- 道路が狭くベビーカーや車いす等弱者にやさしくない

コミュニティ

- 地域との繋がりが残っている

コスト

- 家賃・駐車（輪場）・ガス代が他都市に比べて高い

その他

- 若者が少ない
- 地形が複雑で、中心部は適当な広さであるが、視野（ランドマーク）が見えづらい

将来のまちの姿

- 日常的に歴史文化を都心部でも感じるため、国際文化都市を目指す
- 地元の商店（市場）が復活し元気になって、歩きたくなるまち
- 長崎以外の人から刺激をもらうまち
- 地域の繋がりが続いているまち
- 多様な選択肢がある生活ができるまち

取り組み

地域資源

- 文化の継承を行うため、ルーツや意味を辿ってみる
- 歴史を振り返り、良いものを再評価
- 経済性が理由で歴史的なものが失われているため、それ以外の価値観で改めてまちを見直す
- 市民に改めて大切にしているものを聴く機会を設けてみては

生活利便施設

- まちなかに若者を増やすため、今あるものを利活用し、家賃を下げたり、24時間勉強できる環境を整備する

公共交通

- 公共交通を充実させ、様々な場所にアクセスしやすくなると、長崎の強み（歴史、自然、食べ物等）の主張ができる

仕組み

- 地域の人々の繋がりが大切であり、地域の小さな活動が継続できるよう支援
- 一人一人が人を思う気持ち（公共性）を自覚するため、おくんちが継続している姿勢やシステムを上手く活かす

その他

- 定住人口の増加（数字）に拘らず、まずは、今いる市民の日常生活の幸福度を優先すべき

中央地域（2回目）

1 班（選択テーマ：都心部）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状

地域資源

- 遺跡を壊している
- 立体的な街並みが面白い
- 路地が魅力的
- 街並みが壊れバラバラなまちになっている

道路

- 道が凸凹で通りにくい

生活利便施設

- 新しい施設はそのうち閑散となるのでは

その他

- 文化系のイベントが少ない
- インフラが劣化していつている
- 老人の孤独死が問題
- まちなかのマンション移住が加速

場・憩い

- 文化・芸術などの作品を創作・展示するような場所が欲しい
- 文化・芸術関係で利用できる場所は有料で、学生などは利用しづらい
- 若者が遊ぶところが少ない
- 公園などに桜が少ない（リピーター客を増やすためには桜を取り入れていく必要）

将来のまちの姿

- 美がある町
- 長崎スタジアムシティをしっかりと活用しているまち
- 将来もおくちで賑わっているまち
- リピーター客で溢れるまち
- 生活に必要な機能が歩行圏内にあるコンパクトなまち（斜面地には投資しない）
- 作家たちの活動拠点が至るところにある作家たちの創作活動が溢れるまち

取り組み

生活利便施設

- くんち・カステラ・ちゃんぽんミュージアムを作る
- 様々な世代や多様なジャンルの方が集う萬拠点を作る
- 公設市場をつくる

道路

- 銅座川プロムナードにおける、街路樹は柳を採用してほしい

その他

- 若い世代の注目を集めるため、宣伝の際は長崎出身の次世代著名人を起用する
- おくちの存続のため、電子マネーで投げ銭の仕組みやクラウドファンディングを取り入れる
- スタジアムシティで文化的なイベントの開催、ロープウェイの延伸
- 路地を活かす取り組み

場・憩い

- 公園に桜ゾーンを整備し、リピーター客を増やす
- 中島川に桜並木を整備



1 意見交換会の結果

7

中央地域（2回目）

2班（選択テーマ：長崎市全体）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状

地域資源

- 文化が多様、夜景がきれい
- 観光に適したまち、歴史が深い
- 国際交流拠点になり得る

道路

- 坂・階段が多く住みにくい
- 動く歩道がない

場・憩い

- 浜町に憩いの広場がない（トイレ、緑、休憩スペース、公園等）
- 世代問わず遊べる場所がない
- 市民活動の場が少ない

生活利便施設

- 買い物が不便、お店が少ない
- イベントホールが少ない
- 交番が少ない
- 元気がなくなっている商店街がある
- 市民図書館にイートインスペースが少ない
- 病院・診療所・医者が全国トップレベル

公共交通

- 車がないと自由度が低い
- 電停の駅が短い
- 交通の便が悪すぎる
- 公共交通機関が終わるのが早い
- バス停や電停から観光地まで遠い

住環境

- 住みやすいところもある
- 犯罪が少ない
- 気候が安定しており、地震が少ない

地域資源

- 魚がおいしい
- 魅力的な料理が多い

人

- 人が優しい
- 他人に声をかけやすい

空き地・空き家

- 斜面地の空き家が多い

コスト

- 賃金が低い

その他

- 市民活動が取り上げられやすい
- イベントが多い
- イベントの収支が低い
- 明日への夢がみつけれない
- 結婚したらリターンしづらい
- 不動産が負債産になっている
- 工業団地の誘致が不十分
- 自転車、バイクのマナーが悪い

将来のまちの姿

- マイノリティーに優しいまちのロールモデル
- あらゆる世代が住みやすいロールモデル
- 元気なシニア世代が活き活きと活躍するまち
- 人口増加の成功モデルとして国内外から人が学びに来るまち
- 世代別に遊び場があるまち
- 公共交通機関の便が多いまち

- 自然の恵みを生かすまち
- スモールビジネスが始めやすいまち
- スマートシティを目指すまち
- 2040年100%電気自動車化推進（脱炭素化市）
- ゼロカーボンシティを目指すまち

取り組み

場・憩い

- 世代別の遊び場を増やす

道路

- 坂に手すりをつける
- 街灯を増やす

生活利便施設

- 遊興施設の充実

公共交通

- 交通機関の再配分を行う
- 乗合タクシーの乗降場を増やす
- 海上交通の活用
- 危ないバス停に車避けを整備

交流

- 人材交流でまちの活性化
- 国際交流イベントを行う

その他

- 住宅の色彩を統一
- おくんちの全国認知度UP
- デリバリーサービスの拡充
- 大学の学部を増やす
- 健康増進の取組をする
- 子育てパートナー等の移住を説得しやすくする仕組みづくり
- 高齢者活用プロジェクト
- 地域コミュニティ支援金をUPしエリア自律化の加速
- 癒しをテーマとした売出
- 興業、副収入を増やす
- インバウンド強化県
- 夜の観光施設の充実
- PR活動を活性化
- スタジアムシティにチームラボを誘致
- まち歩きでランチファン500円
- 様々な情報のプラットフォームがほしい、情報ネットワークの強化
- 工業団地を郊外へ作る



1 意見交換会の結果

8

中央地域（2回目）

3班（選択テーマ：都心部）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現 状	地域資源 <ul style="list-style-type: none"> ●祭りの準備が凄い、お祭りが多い ●夜景がきれい ●歴史が豊か、歴史ある町 	生活利便施設 <ul style="list-style-type: none"> ●商店街が減っている ●中華街の飲食店が早く閉まる ●駐車場が少ない 	住環境 <ul style="list-style-type: none"> ●物件のバラエティーに富んでいる 	空き地・空き家 <ul style="list-style-type: none"> ●空き地・空き家が増加
	道路 <ul style="list-style-type: none"> ●道路が整備不良 	公共交通 <ul style="list-style-type: none"> ●タクシーが減っている ●バリアフリーが進んでいない（バス、電車） 	地域資源 <ul style="list-style-type: none"> ●魚がおいしく、安い 	コスト <ul style="list-style-type: none"> ●生活コストが高い（特に水道料金） ●ガソリン、駐車場、家賃が高い ●低賃金
	場・憩い <ul style="list-style-type: none"> ●水辺の森公園は気持ちがいい 	コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ●地域のつながりが希薄化 ●地域活動に無関心な人が増加 	人 <ul style="list-style-type: none"> ●一部にやる気ある若者がいる ●人とつながりやすい、人がおせっかいで優しいまち 	その他 <ul style="list-style-type: none"> ●ドライバーのマナーが悪い ●若者が戻って来ない、定住できない ●海を塞ぐ高いビルが多い
	働く場 <ul style="list-style-type: none"> ●働く場所がない 			
将 来 の ま ち の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ●歩いて暮らせるまち ●人が歩きやすいまち ●車を持っていなくても歩いて暮らせるまち ●誰もが移動しやすい公共交通機関のまち ●美しい景観のまち ●美しい緑が多いまち ●古い建物が活かされるまち ●歴史的建物が新しい魅力に溢れるまち ●おくんちが続いているまち ●観光客を住民が共存できるまち ●周辺部の自然豊かな地域がもっと元気なまち ●防災に強いまち ●運動が安価にできるまち ●空き家が減っているまち ●県外の方が来崎して楽しいな、住んでみたいと思うまち ●家族連れに選ばれるまち ●地域住民が助け合い支え合えられるまち 			
取 り 組 み	道路 <ul style="list-style-type: none"> ●垂直エレベーターを増やし斜面地再生 ●県庁から平和公園までを2階の遊歩道でつなぐ ●交通環境・道路の再整備 	場・憩い <ul style="list-style-type: none"> ●まちのコーディネートスペースやコーディネーターがいる場所を確保 ●サードスペースを作る ●若者が遊べる場所・交流を増やす ●中高生の居場所づくり 	食 <ul style="list-style-type: none"> ●魚がおいしい所を活かす 	その他 <ul style="list-style-type: none"> ●長崎のブランド力を活かす ●坂の町を活かしたまちづくり ●健康相談ができる場 ●旧市街地の復活 ●最低賃金を上げる ●若者がイベントや祭りを企画 ●夜景を活かしたまちづくり ●インバウンドの利用 ●港を活かした生活空間を作る
	生活利便施設 <ul style="list-style-type: none"> ●目立つ所に庶民の食堂・市場 ●一等地、商業地に建つマンションの1Fは販売サービスを誘導 	住環境 <ul style="list-style-type: none"> ●高級住宅街の整備 ●傾斜地に夜景の見える家 ●長崎大医学部とリゾートマンションのコラボ 		



1 意見交換会の結果

9

東部地域

1 班（選択テーマ：地域拠点・生活地区）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状

土地利用

- 土地があるが企業誘致が進んでいない
- 道路がないと企業誘致は進まない
- 新築時の規制が厳しい

道路

- 国道34号線の渋滞
- 川内地区から国道251号に出られない（押しボタン式信号機しかない）

子育て

- 希望する保育園や幼稚園に入れない

公共交通

- 移動が困難
- バスの便数が少なすぎる
- 免許返納ができない
- 買い物困難者が多い
- 買い物ができない高齢者が多い
- JR駅はあるが便数が少ない
- JR駅までの移動手段がない

生活便利施設

- 矢上団地に商店がない
- 本屋がない

災害

- 東望地区には、避難場所となる集会所・公民館がない

医療・福祉

- 老人ホームが少なく老後が心配
- 地域の救急医療の維持が懸念される

将来のまちの姿

- 企業・住宅が集積するまち
- 渋滞が解消されたまち
- 誰もが公共交通で便利に移動できるまち
- 老後も安心して過ごせるまち
- 誰もが暮らしやすいまち
- 災害に強いまち
- 買い物が便利なまち
- 子育てしやすいまち

取り組み

土地利用

- 調整区域から市街化区域への編入
- 調整区域の撤廃
- 宅地開発規制の緩和
- 企業誘致

道路

- 国道34号の早期改良
- 東長崎縦貫線の早期完了

公共交通

- 公共交通の規制緩和
- タクシー券の倍増
- コミュニティバスを増やす

生活便利施設

- 病院、教育の場の整備

災害

- 避難所を増やす

その他

- 行政にも頑張ってほしい
- 中心部だけではなく東長崎方面に力を注ぐ
- 空き家対策
- ソニー（諫早市）への送迎バス運行



1 意見交換会の結果

10

東部地域

2班（選択テーマ：広域連携、地域拠点・生活地区）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状	<p>土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東長崎の土地活用は昔のまま ●土地利用の規制緩和をしないから家が建てにくい <p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●渋滞がひどい、交通量が増加 ●生活道路に車が侵入し、危険 ●東長崎縦幹線の完成時期が遅い ●都心部と生活地区のアクセスが弱い <p>場・憩い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東公園はありがたい ●大型公園がなくアクセスが悪い ●遊具が少ない、子どもが遊ぶ場所がない 	<p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ●車がないと生活しにくい ●タクシーがない ●人口が増えてもバスが減る ●10年前と比較するとバスの便が半減 ●バスが不便の為、アルバイトもできない ●諫早の最終バスは19時半、長崎は21時半 ●市内中心部からのバスは大村の方が最終バスが遅い ●長崎空港へのアクセスが悪い ●新幹線が使いづらい ●諫早から矢上へのバスが少ない <p>生活利便施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移動スーパーが来ている ●個店が減っている ●コミュニティ施設がない 	<p>住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ●治安が良い <p>医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●病院に行くにも送迎が必要 ●総合病院がない <p>子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てしやすい <p>近隣都市</p> <ul style="list-style-type: none"> ●諫早市は企業誘致に合わせて土地の有効活用をしているが長崎はそれがいい ●諫早市の企業進出は東長崎地区にとっては大きなこと 	<p>コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物価が高い ●外で生活するとコストが高い <p>地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ●魚がおいしい <p>災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ●戸石は避難所がない ●遠い避難所に避難しなければならない <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元への企業誘致でないと活性化にはつながらない ●文化施設の利用が少ない ●補助が長崎はない ●漁業の後継者不足 ●観光名所がない
将来のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ●企業誘致の充実したまち ●斜面地が住みやすいまち ●一次産業を大事にするまち ●漁場の多様性を確保するまち ●誰もが安心安全で暮らしやすいまち ●家をたてやすいまち ●アクセスに強いまち ●災害時にも安全なまち ●地域資源を活かしたまちづくり ●子育てに強いまち ●地元の商店も大事にするまち ●東長崎地区の人口が増えているまち ●元気ある東長崎地区 ●総合病院に行きやすいまち ●安全安心なまちづくり・歩きやすいまち 			
取り組み	<p>土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土地利用の規制緩和 ●都市計画線引き見直し <p>場・憩い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●松原公園計画を進める ●子どもが遊べる場所の整備 	<p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長崎・諫早・大村を選択できるバス便の増加 ●駅までの公共交通を増便 <p>災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ●戸石に避難所設置 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東長崎縦幹線の5年以内での完成 ●国道34号線の拡幅を急ぐ ●命の道路（東長崎～メディカルセンターへ結ぶスマートインターの設置） ●滝の観音までの歩道整備 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公民連携を行う ●長崎の形に合わせた補助制度の在り方 ●一次産業の強化 ●歴史的文化施設の有効活用 ●斜面地に民間活力を入れていく



1 意見交換会の結果

11

東部地域

3班（選択テーマ：地域拠点・生活地区）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現
状

土地利用

- 市街化調整区域が広すぎて、家が建てられない

公共交通

- バス、JRの本数が少ない

生活便利施設

- 店舗が割と多い
- 魅力的な飲食店がある
- 買い物が不便
- 本屋がほしい

その他

- ペンギン水族館がある
- コロナ禍で地域はダメージを受け、つながりが弱くなっている

道路

- 国道34号が混雑

場・憩い

- ウォーキングしやすい
- 公園が小さい

医療・福祉

- 救急医療が弱い
- 医療施設、介護施設が少ない

将
来
の
ま
ち
の
姿

- 3世代が楽しく暮らせるまち
- 子どもが暮らしやすいまち
- 住民同士のコミュニケーションがあるまち
- 長崎人になろう

- 公共交通が維持できるまち
- 美しい街並み
- 長崎の強みをデザインに活かすまち

取
り
組
み

土地利用

- 新築の規制緩和
- 調整区域の緩和
- 会社を呼び込む

公共交通

- ライドシェア

生活便利施設

- 移動販売業への支援

その他

- 介護の公的ネットワーク

道路

- 国道拡幅
- 道路の早期開通
- 子どものための交通安全

場・憩い

- 大きな公園
- 八郎川河川敷の整備→散歩コースの整備
- 子育て世代向けの公園整備

医療・福祉

- 総合病院をつくる



1 意見交換会の結果

12

南部地域

1 班（選択テーマ：地域拠点・生活地区）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現 状	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交通渋滞 ●渋滞で外出を控えてしまう ●道が狭い ●道路網が気になる ●中央との連携が薄い <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ●免許返納した後の交通機関が少ない ●バスの最終が早い <p>医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医者が中心地に固まる ●病院が少ない ●救急受け入れしてくれる病院不足 	<p>生活利便施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フレスポ深堀ができて人が集まるようになった ●病院、学校、買い物などが便利 ●施設が少ない <p>場・憩い</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公園がない ●公園をくunch等で利用するから物をおけない ●遊ぶ場所がない ●緑が少ない 	<p>地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海がきれい ●自然の海岸がある ●恐竜博物館や伊王島など観光地もある ●食べ物がおいしい ●訪れる場所がきれいではない <p>子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもが少ない ●子育てに少し懸念 <p>コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体で話す場がない ●集まる場所がない ●行事を行いづらい 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合事務所に専門部署がない ●市が自治会制度を弱めている ●自治会に入る人が少ない ●地域への補助金、使い道が少ない ●財政難 ●若者が出ていく ●中心部への投資だけで、周辺にお金が回らない ●病気の方は移動がづらい ●見守りマップを作成している
将 来 の ま ち の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ● 渋滞なく都心部へ移動しやすいまち ● 交通網が充実したまち ● 働く場、企業のあるまち ● スウェーデン、ドイツのような緑あふれるまち ● 住んでいる人たちが過ごしやすいまち ● 自治会をしっかりと核にするまち ● 野母崎方面へドライブしたくなるようなまち ● クルーズ客が長崎で消費するまち ● 観光客がまた来たくなるようなまち ● 観光→長崎の人の生きざまに触れる 			
取 り 組 み	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ●渋滞解消 ●道路整備 ●国道499号の早期整備 ●出島道路までのアクセスを無料に ●並木、ベンチ等整備 <p>医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域医療に力を入れる 	<p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ライドシェア ●高齢者の乗降を手助けできる交通サービス ●高齢者が利用しやすい交通機関 <p>コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●季節に関係なく集まれる場所 ●お祭りを中心としたコミュニティづくり 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●旧野母崎高校の活用 ●深堀体育館にクーラー設置 ●恐竜博物館まで賑わいをつなげる ●交流人口のリピーター率が向上する取組み ●製造業誘致 ●税金等免除して企業誘致 ●簡単に市民が相談できるような部署の設置 	



1 意見交換会の結果

13

若者・女性

1 班（選択テーマ：長崎市全体）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現状

賑わい

- 商店街や中心部に活気・賑わいが無い
- 浜町に行かなくなった
- 長崎駅周辺は賑わっているが、その他の地域は賑わいが少ない

地域資源

- 歴史的建造物が多く残っている
- 片淵キャンパスの歴史が凄い
- ビルが建ちすぎて景観が崩れている
- おくんの担い手が減少
- 観光目的が歴史や平和というカテゴリーに絞られがち

道路

- 道が狭く歩きにくい、凸凹している
- 通勤・帰宅ラッシュの渋滞
- 信号待ちが多すぎる
- 歩いて休憩できる場所が少ない

公共交通

- 路面電車がある地域は利便性が高い
- 路面電車が通っている場所とそうでない場所の差が大きい
- 長崎駅前の路面電車が遠すぎる
- バスの本数が少ない(夜7時以降)
- バスの遅延時間や待ち時間が分かりにくい

場・憩い

- 公園や子供が遊べる場所、子供が参加できるイベントが少ない

生活利便施設

- 24時間勉強できるフリースペースがない

コスト

- 家賃が高く、都心に住める場所が少ない
- 物価が高い

その他

- 若者の数が少ない
- 外国人観光客が多い
- 中心地から離れた地域の生活の質の低下
- 魅力的な働く場所がない(もしくは伝わっていない)
- 検討会や会議に若者が少ない

将来のまちの姿

- 幅広い世代が集まるまち
- 若者が住みたいと思えるまち
- 子育て世代を地域で支えるまち
- 市内（県内）のどこに行っても子供の賑わいがあるまち
- 高齢者が暮らしやすいまち
- 帰ってきたいまち

- 様々な施設にアクセスできる生活しやすいまち
- 交通が不便な場所をつくらない
- 安心して歩けるまち
- 賑わいのある商店街
- 留まることができる場所が栄え、常に人にぎわう都心部
- 市民と観光客どちらにとっても魅力的なまち
- 観光を活かしたまち

- 様々なジャンルの人が活躍できるまち
- どんな属性に人ものびのび生活できるまち

取り組み

生活利便施設

- 若者にささるお店の導入
- 商店街にしかないオリジナル店舗を増やす
- 地元企業やお店を支援・応援
- 浜町の再開発により若者が集まるまちに
- 病院、学校などの適切な配置

道路

- 歩きやすい歩道の整備
- 子供(バットも)が安心して歩けるよう、自転車レーンをつくる
- 商店街と駅の導線強化

公共交通

- 公共交通の利便性を高める
- 路面電車の延長
- 路線バスの路線再編（利用者が少ないところはタクシーに変更）
- コミュニティバスの検討
- コミュニティバスや乗合バス、タクシーを低廉な価格で利用できるように
- 長崎駅前の再整備（バス停、電停の位置の見直し）
- 歴史をつなぐ目的をつなぐ交通の強化
- 観光地にアクセスしやすくする

場・憩い

- 公園整備
- 子どもが遊べる空間づくり
- 子どもも大人も一緒に楽しめる公園・施設を増やす
- 中心部に体を動かせる公園・施設を増やす
- 芸術や音楽のイベントを増やす
- 定期的にイベントを行う（装飾等も）
- 地域交流の場を増やす

その他

- 長崎の企業の周知
- 長崎の問題点・必要なことについて若者の意見を集める
- 学生と社会人の繋がり
- 市民活動団体の認知と応援
- 観光地と生活地区の区別を出来るだけはっきり分ける

若者・女性

2班（選択テーマ：都心部、斜面地）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現 状	<div>地域資源</div> <ul style="list-style-type: none">●歴史あるまちなみ、歴史が豊かでポテンシャルがある●おくunchi●観光資源が多い●駅周辺の歴史が見えない●魅力が多すぎて逆に長崎らしさが分からない	<div>公共交通</div> <ul style="list-style-type: none">●路面電車で移動がしやすい●斜面地への移動手法が多様にある●都心部と周辺部の交通が不便●斜面地では公共交通が未整備●片淵キャンパスと文教キャンパスを結ぶ直通バスが廃止され、キャンパス間の移動が不便	<div>場・憩い</div> <ul style="list-style-type: none">●より文化に触れられる場所が欲しい	<div>災害</div> <ul style="list-style-type: none">●防災に対する意識が低い	
	<div>生活利便施設</div> <ul style="list-style-type: none">●長崎駅周辺から離れたところが衰退●図書館の位置が微妙●24時間学習できるスペースがない	<div>道路</div> <ul style="list-style-type: none">●道が狭い●駅周辺からまちなかへの回遊性に課題	<div>コミュニティ</div> <ul style="list-style-type: none">●地域におけるつながりが減少	<div>人</div> <ul style="list-style-type: none">●若者が活発	<div>その他</div> <ul style="list-style-type: none">●海外との接点が多い●離島教育に格差●経済キャンパスを残してほしい
将 来 の ま ち の 姿	<ul style="list-style-type: none">●文化財を大切にするまち●海外との交流が活発なまち●まち全体で賑わいのあるまち●創造的な活動ができるまち●想いのある人、やる気のある人がちゃんと活動できるまち●市民全体がまちづくりに参加するまち、子どもがまちづくりに参加するまち <ul style="list-style-type: none">●勉強スペースが充実しているまち●環境にやさしいまち●防災に強いまち、災害に対応できるまち●学生時代から長崎が好きになるまち●長崎ファンをもっと取り込むまち				
取 り 組 み	<div>生活利便施設</div> <ul style="list-style-type: none">●コワーキングスペースの整備	<div>道路・公共交通</div> <ul style="list-style-type: none">●居住地区と都心部をつなぐ交通整備	<div>場・憩い</div> <ul style="list-style-type: none">●海外から来た方との交流の場を設ける●図書館や大学、文化施設などがより市民に開けた創造の場にする●県庁跡地に新しい賑わいの拠点を整備●アートに触れられる機会の創出	<div>その他</div> <ul style="list-style-type: none">●消費に対する意識変革●地域防災計画の周知●長崎を体験して知る教育●環境にやさしい企業を増やす、クリーンエネルギーを利用する●事前防災の意識と知識が根付いている●創造的な活動の周知・PR●子どもがつくったものをまちに残す	



1 意見交換会の結果

15

若者・女性

3班（選択テーマ：都心部）

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

<p>現 状</p>	<p>地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 岬のエリアは歴史文化がつまった場所 ● 資源（文化財）が多い ● 歴史的な資源を守ることが不十分 ● 他の都心と似たような景色になっている ● 景観的な特徴が壊されている ● 和華蘭文化など、長崎のまちづくりで何を守るべきかの議論が必要 ● 片淵キャンパス等、歴史を有す学び舎が残ってほしい 	<p>生活利便施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 雰囲気の良い店、個人経営の飲食店が多い ● 商店街の寂れ ● 商業の中心部が変わりつつある ● アミュ新館やスタジアム開業で金の流れが変わる ● 臨海部の商業施設だけで買い物が完結（まちなかに行かない） ● 商業施設の活力がいつまで続くか 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道が細くガタガタ ● 道路上の自然が少ない（街路樹） <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アクセス手段が多い ● 路面電車が充実 ● 公共交通がマヒするといけない ● 終電が早い <p>場・憩い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 創作活動を気軽にできる場所が少ない ● 道路上に街路樹などの自然が少ない 	<p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 色んな人に出会える <p>コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家賃や物価が高い <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者が少ない ● 夜になると賑わいがない ● 観光客が多い
<p>将来のまちの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史が残る町 ● 長崎で歴史的な再構築していくまち ● 長崎の景観を活かしたまちづくり ● 地元の多くの人が長崎市独自の魅力に気づくまち ● 子持ちのお母さん障害者、高齢者の方々等誰でも歩きやすいまち ● 徒歩でも過ごせるまち ● 地域の高齢者の方々が買い物しやすいまち ● 人口規模にあった商店が残るまち ● 個人店でゆったりくつろげるまち ● 商店街にある唐人店（カフェ）でのんびりできるまち ● 商店街の賑わいが復活したまち ● 企業・働く場が多いまち ● 多様性のある岬のエリア ● まちづくりを普段から話す場所あるまち 			
<p>取 り 組 み</p>	<p>地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的な資源を活用していく支援 ● 活用する人の支援だけでなく、そこを地元の人や観光客に知ってもらえるように 	<p>場・憩い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちのことを教える意見交換の場が必要 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光地に改めて行ってもらう ● 長崎市民の長崎の歴史やまちへの理解を深める教育などの充実 ● 福祉・教育など横断的に意見を披露 ● 再開発事業の調査・報告する機会を設ける ● ソフトのまちづくり 	



1 意見交換会の結果

16

若者・女性

4班(選択テーマ：あらゆる属性の人が安心して生活できるまち)

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現
状

生活便利施設

- 地元商店街が寂れている
- 個人経営のなじみの店が少なくなっている
- まちの〇〇屋さんが少なくなっている
- 外国人向けの店舗が増え、地元コミットしていない
- 買い物難民問題 ● 駐輪場がない

公共交通

- 安価で公共交通が利用できる
- 公共交通機関が不便
- 運転手不足から、バス減便

道路

- 通勤通学時、帰宅時の渋滞がひどい

場・憩い

- 公園が整備されていない
- 安心して遊べる場所が少ない

空き地・空き家

- 斜面地空き家が多い

コスト

- 家賃、駐車場代が高い
- 急速な物価高
- 遊ぶことにお金が掛かりすぎる

地域資源

- 自然が多い(斜面地)
- 斜面地からの景色、眺めが良い
- 海と山が近い
- 長崎らしいところが減っている
- 平地にマンション建ちすぎて、味気ない風景に

人

- 市民活動が活発
- 顔が見える距離
- ゆっくりしている
- 人が優しい。穏やか
- 人が多すぎないのが逆に良い
- 困ったら助けてくれる
- 人間関係が濃い

その他

- 都心部は便利だが地域は不便
- 長崎外国語大の位置が微妙
- 相対的貧困と呼ばれる家庭が多い
- 外国人観光客の方が増えてきた
- コンビニ店員に外国人の方が増加
- 原爆のイメージが広島より薄い
- 子育て支援団体が多い

将来のまちの姿

- 長崎らしさを残し、つくりながら活性化する
- 斜面地を農村化、牧場化する
- ゆったりできるリゾート観光地
- 行政に親しみやすさがあるまち
- ひきこもりや自殺者を未然に気づき地域単位でふせぐ町まち

取
組
み

生活便利施設

- 移動式のスーパーマーケット
- 駐車場、駐輪場の整備

道路

- 斜面地エレベーター設置
- 道案内が分かりやすく、道路にMAPの板を置く

住まい

- 行政によるバランスよい住宅

公共交通

- 海上交通の拡充(観光、交通)
- 路面電車の延長
- バスドライバーを増やす
- マイクロバスの運行(バス路線で浜町を bypass して大浦→駅の直通路線)
- 恐竜博物館へのアクセスをよくする

仕組み

- 人材育成の仕組み(各分野)
- 気軽にお金を稼げる仕組み等

場・憩い

- 子供の遊び場
- みんなが集まり遊ぶところ
- スタジアムシティで長崎ならではのイベントを行う
- 公園・広場の全体的な見直し
- コミュニティガーデン
- 市役所に交流広場

その他

- 県庁跡地活用のアンケート実施
- まちなかにランチキャンパス
- まちなかまで人を流す
- 長崎大まちづくり学部を設置
- 就労支援人
- 小中高で意見交換会を行う
- わかりやすいマップ等の配置
- 地域にもお金をかける
- 行政の縦割りを横軸に
- 情報の共有化

- 専門家を活かした子育て支援
- 英語・中国語ガイドを増やす
- まちの将来像の明確化
- 景観の質を高める仕組み
- 簡単に行けるハイキングコースを作る
- シェア自転車
- 子どもと外国人の交流の強化
- お年寄りの孤独死を防ぐ



1 意見交換会の結果

17

若者・女性

5班(選択テーマ：長崎の品質を高める)

橙：メリット 青：デメリット 黒：その他

現 状	<div>生活利便施設</div> <ul style="list-style-type: none">●商業施設など楽しめる場所が増えた●南部に施設が少なく、中心部に集中しすぎ	<div>公共交通</div> <ul style="list-style-type: none">●バスの本数が減っている●終電が早い●バスがどれに乗ればよいか分からない	<div>場・憩い</div> <ul style="list-style-type: none">●公園が少なく、子供が家に籠ってしまう	人	<div>優しい人が多い</div>	コスト	<ul style="list-style-type: none">●道沿いは1,000万円、階段上は5万円●家が高くて建てられない●駐車場が高い	その他	<ul style="list-style-type: none">●ひよい旅●斜面地が置き去りにされている●外国人観光客の数が多い●小・中の統廃合が進んでいる●観光に優しく、住むのに厳しい
	<div>道路</div> <ul style="list-style-type: none">●歩道の整備が充実しておらず、危ない道路が多い●朝夕の渋滞●坂や階段が多い	<div>地域資源</div> <ul style="list-style-type: none">●自然が豊か、海がきれい●景色がいい●食べ物が美味しい●魚が美味しい							
将 来 の ま ち の 姿	<ul style="list-style-type: none">●産業のバランスがとれたまち●自然を活かしたまち●子育てが偏らない●「斜面地」マイナスイメージからの転換●域内循環●ゆりかごから墓場までわくわくが止まらないまち●家業が栄えるまち●結婚したいと思える収入が得られるまち●専業主婦を選択できるまち●都会になれず田舎にも戻れないまちにしないために、いい田舎まち●動物と人間がともに暮らしていけるまち●長崎に住みたい！もう一度来たい！長崎のために働きたいと思えるまち●企業へ協力してもらい、早く帰って家庭での時間をつくるまち●子供だけで安心して外出でき、安心して過ごせるまち●今の子どもたちが住みやすい（住みたくなる子育てしたくなる）まち								
取 り 組 み	<div>公共交通</div> <ul style="list-style-type: none">●公共交通機関の強化	<div>場・憩い</div> <ul style="list-style-type: none">●複数の居場所づくり●世代関係なく楽しめるイベント●公園を充実させる●公園や道路をたまり場として活用	その他	<ul style="list-style-type: none">●農林・水産業の安定●産業支援、特技のある産業を増やす●市役所は要なので人材教育、横連携●市が現状の要因を調査●不登校ひきこもりを戦力に、高齢者を戦力に●福祉制度の充実・改善●弱者にさせない、弱者を作らない、弱者と呼ばせない●人材発掘・育成、人材・福祉支援●ワークライフバランス●魅力発信の強化●使用していない場所の活用、空きビル、斜面地活用●自治会の活発化●美観重視●異世代交流●適正人口					
	<div>仕組み</div> <ul style="list-style-type: none">●まちの担い手人材育成システム●人口減を補う新技術導入・誘致								

(1) 意見募集の概要

(1) 募集期間：令和6年8月16日～令和6年11月1日

(2) 意見募集の内容：

- ① 訪れたくなる、回遊・滞在したくなる、住みたくなるまちとなるための「将来のまちの姿」や「将来の人々の過ごし方」のイメージ
- ② ①と考える理由など

(2) 意見提出数 15件

(3) 意見の概要（提出順）

No	①将来のまちの姿・過ごし方	②理由
1	<ul style="list-style-type: none">● 高層マンションの乱立で、独特の風情のある景観が損なわれない● 素敵なまちの特徴的な風景を大事にしてほしい	<ul style="list-style-type: none">● すり鉢状の景色は、見慣れていない者からするととても貴重で美しい● マンションだらけではつまらない街並みになる
2	<ul style="list-style-type: none">● まちの中心部に野外ステージをつくり、その周辺のお店などにも立ち寄るように人の流れをつくる	<ul style="list-style-type: none">● 県庁舎跡地や市庁舎跡地など空き地が増加しており、ダンスや演劇、お祭りなどがしやすいステージ（市民が使いやすいもの）をつくることで、人の流れができ、まちの活性化につながるため
3	<ul style="list-style-type: none">● 斜面地が区画整理され、若い人が適切な価格で住むことができる住宅が増え、夜景の輝きが増し、若者が定住するまち	<ul style="list-style-type: none">● 長崎の夜景を守り、若い人に定住してもらうためには、斜面地を活用するしかない● 斜面地を活用するためには、道を拡げ、坂を緩やかにしないと不可能だと思う

2 意見募集の結果(概要)

No	①将来のまちの姿・過ごし方	②理由
4	<ul style="list-style-type: none">● 子どもの医療費の無償化● ベビーカーが利用しやすい路面電車とする● 買い物ができる場所を低料金で巡回するバスの運行● 子どもを安心して遊ばせる公園の整備	<ul style="list-style-type: none">● 子どもが3人おり、かなりの出費であるため● ベビーカーでの移動が大変であるため● 公園での喫煙など、子どもを安心して遊ばせる場所が少ないため
5	<ul style="list-style-type: none">● オーバーツーリズムに悩まされず通勤・通学ができる観光と生活が調和されたまち● 誕生から就学・就職・子育て・老後と包括的にこのまちで生涯を終えたいと思えるまち	<ul style="list-style-type: none">● 路面電車やまちなかの混雑、ごみなど、オーバーツーリズムと思われる点があり、市民として不安要素があるため● 私自身他県出身であるが、このまちで生涯を終えることに疑問が残るため
6	<ul style="list-style-type: none">● 男性も女性も働きやすく、安心して子育てと仕事を両立できる環境づくり● 子ども連れから高齢者まで多様なニーズに応えられる飲食店の充実● コワーキングスペースやビジネスホテル、駐車場、スーパーの利便性向上	<ul style="list-style-type: none">● 労働力の中心である子育て世代が安心して働くためには、安心して子どもを預けられる施設が不可欠と思うため● 駅前の再開発やスタジアムシティ開業で、多くの集客が想定されるが、近辺の飲食店が不足しているように感じるため
7	<ul style="list-style-type: none">● 坂のまちのあらゆる場所に斜行エレベーターを設置● 都心部に高齢者用マンションの建設を誘致● 斜面地は展望の良さを活かした住宅を増やし、若者が長崎ならではの空間で暮らす	<ul style="list-style-type: none">● 斜行エレベーターは、住民の足となることはもちろん、斜面地からの景色は観光資源としても活用できるため● 斜面地に住む高齢者が都心部で安心・快適に暮らせるまちになれば、先進的なモデルになり得るため● 斜面地からの景色、空間はどこのまちにも劣らない財産であるため、時間をかけてでもその財産を活かすべきであるため

No	①将来のまちの姿・過ごし方	②理由
8	● 鳴見台小学校区内にふれあいセンターを開設	● 校区内の公共施設は小学校しかなく、住民人口からみても校区内にふれあいセンターや子育て支援センターなどがないことは異常ではないか
9	● いつでも、自身の時間帯で、自給自足型のライフスタイル	● 農業の継承や直売所・共同工房の設置による地域活性化につながるため ● また、この取組みを通じ、全ての市民にきっかけ作りをし、活動のステージを創出できるため
10	● 空気がきれいなまち	● 市内の排気ガスの臭いがとても気になっており、環境に優しい乗り物への転換や路線バスの利用者が少ない時間帯は中型バスにすることで、心地よく生活できるまちになるため
11	● 藤棚の長崎、涼しい長崎、日傘が要らない長崎	● 昨今、暑すぎて外出することが億劫であり、観光客も高齢者もまちなかを歩くことが難しく、主要観光地や駅周辺、ランドマーク周辺の歩道に木陰が欲しい ● 高木は台風時に倒木の危険性があり、藤棚の花を見に来る観光客も増えると思うため

No	①将来のまちの姿・過ごし方	②理由
12	<ul style="list-style-type: none">● 文化の香り溢れる長崎● 長崎を「文化の香り溢れるまちにするための6文字」 希：文化の香りは、憧れ、明日への希望。子どもという名の未来の大人に希（のぞみ）を 祭：長崎の祭り。人々の情熱と伝統が文化の香りを豊かに広げる、くんちの庭先周りの様に 祈：平和の文化は、長崎の祈り。希望の灯りをたやさすまじ。その想いは、海を渡る 想：ふるさと長崎を離れて思い出す風景。それは、街並み、人、味覚、そして香り 情：ひとにやさしい長崎の心は、文化で育まれる。心は、街の香りを記憶す 郷：人と人の繋がりが希薄になる時、それを繋ぎとめるのは、故郷の文化の香り	<ul style="list-style-type: none">● 住みたいと思うまちに欠けているものがあるとしたら、それは「文化の香り」だと思う● 昭和から平成に代わる時代、「物質的な豊かさから心の豊かさへ」が文化政策の柱になった● 文化の香りはホールだけで生み出されるものではなく、まちのなかに日々の生活の停留所、人生のバスストップが欲しい● 川沿いのさんぽ道、商店街の街角、海辺の歩道、それらは人々に安らぎと、くつろぎ、自由な物思いの時間を与える場所である。長崎の港には、子どもたちが描いたアートが展示され、週末には街のあちこちで、市民によるパフォーマンスがあり、それらは、四季折々の長崎ならではの祭りと呼応し、まちの文化を形成する。「文化の香り」はこれらすべての様相をとらえる言葉として定義したい
13	<ul style="list-style-type: none">● 長崎の特殊性を徹底して活かすことが何より大切● 旧市街、歴史のある場所と新しい部分を調和させ魅力的に。点としての個々の場所と全体の調和、統一を目指す。点在するスポットつなぐ動線の整備● 平和都市としてさらに発展し、国際的な平和会議の場に● 自然を大切に、巧みなデザインを行い、街並みとともにリゾート地とする	<ul style="list-style-type: none">● 国際的に優れた都市は、独自の景観と歴史的に積み重ねられた特殊性を大切にしている、観光客は絶えることがない● 長崎には宗教を超えて、文化を超えて、平和に向けての国際的な対話の場となる素地が世界で最も備わっていると考える● 自然の美しさはレベルが高く、リアス式海岸の海と山はギリシャ、イタリアに匹敵し、また、ヨーロッパとも異なる趣きがある。自然を大切に巧みなデザインを行えば、リゾート地としても世界中から人が集まるのではないかと

No	①将来のまちの姿・過ごし方	②理由
14	<ul style="list-style-type: none">●長崎昭和レトロ計画●長崎高級住宅街計画●長崎長期滞在医療ホテル建設	<ul style="list-style-type: none">●昭和30年代から平成初期までの長崎には、人々が集う市場があったが、現在、そこに賑わいはなく、暗い影を落としている。昭和レトロブームは一時的な流行りではなく、人々が忘れ失ったものをもう一度思い出して再現する必要に迫られているのかもしれない●神戸の御影や芦屋の様に、長崎にも高級住宅街となり得る場所がある。長崎のイメージアップのために検討してはどうか●医療技術を軸とした、インバウンド向けの長期滞在型医療ホテルの需要がこれから求められると思う
15	<ul style="list-style-type: none">●グランドデザインの検討の枠組みの一つである土地利用に、「遺跡という存在を出現させ、市民・来訪者に見せることで、歴史的景観（昔の情景）の連想につなげる」ことを盛り込んで欲しい。	<ul style="list-style-type: none">●遺跡は、人類の実証・試行錯誤とその成果の形であり、人類すなわち生物生命体のスケール（尺度）によって成立している。故に、人類にとって住みやすいはずである遺跡と相反し、齟齬をきたすことがないよう、これを設計しなければならない●長年の人類の試行錯誤とその成果の蓄積を無に帰すことがないよう取り組むべき

(1) データの概要

携帯電話会社（KDDI）のGPSデータを基にした人流データ。データの概要は以下のとおり。

項目	内容
データの取得範囲	長崎県全体
データの取得時期	2月分（令和元（2019）年5月、令和6（2024）年5月） ※平日・休日（GW除く）別に平均化した1日の移動データ
データの内容	・年齢、性別、推定居住地・勤務地 ・OD（移動の起終点）、移動目的、移動手段、移動経路、滞在時間 等

(2) データの特性

- 位置情報利活用について、許諾が得られたユーザーの位置情報を基に作成
- 公的統計情報に基づく、人口と同等に拡大推計
- 年齢属性は、20代、30代、40代、50代、60代以上の5区分
- 訪日外国人の位置情報は含まない
- 125mメッシュ内に、15分以上留まっている場合、「滞在」と判定
- 居住地ではない場所で、平日8時～20時の間に合計6時間以上いる場所を勤務地に設定
- 滞在先の位置情報、同位置にある施設情報、滞在時間情報より移動目的を推定
- 移動手段の区分は、「鉄道、車、徒歩、自転車・その他」

(3) 分析結果 (概要)

広域連携

通勤

通勤環境の向上

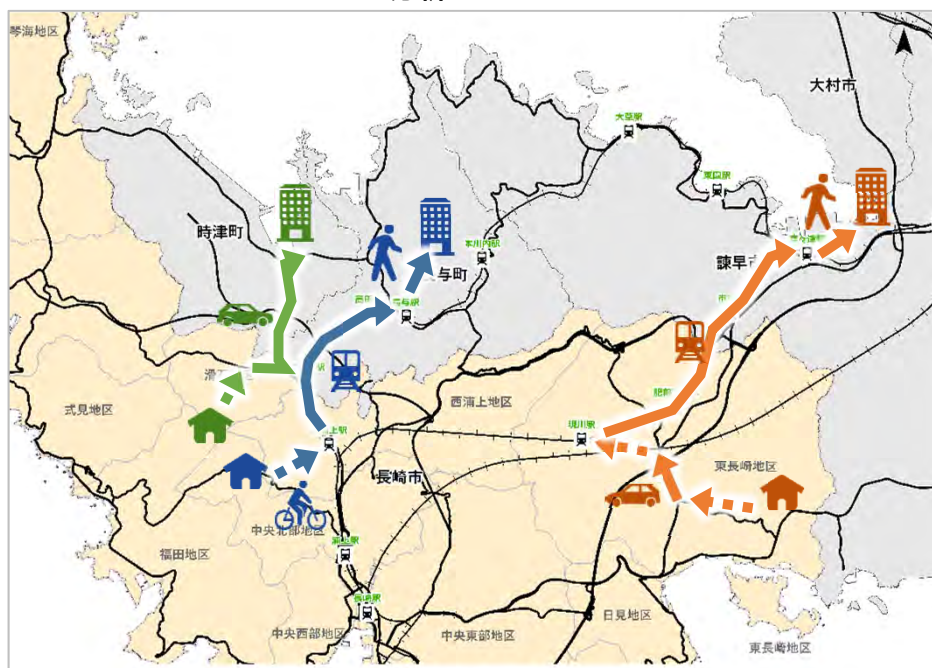
居住地として継続・選択

定住促進

<分析のターゲット>

長崎市民で「諫早市、時津・長与町に通勤する者」

<分析イメージ>



⇒居住地別に、勤務地までの移動経路・移動手段・移動時間等を分析

観光

広域観光の利便性向上

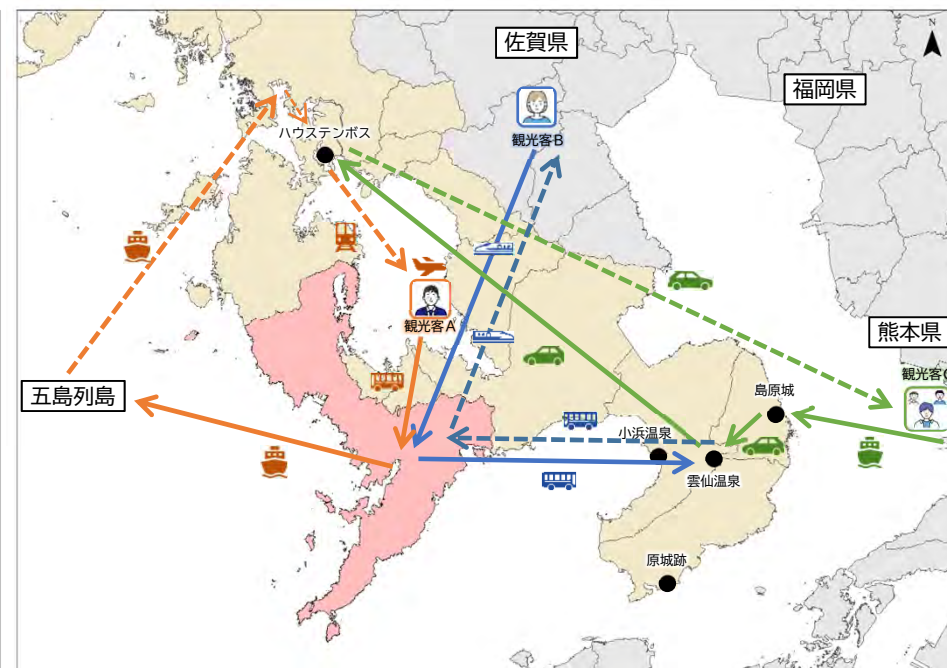
観光客の取り込み

経済再生

<分析ターゲット>

県外居住者で「県内主要観光地を訪れた者」

<分析イメージ>



⇒居住地・性別・年代別に、周遊ルート・移動手段・移動時間・滞在時間等を分析



3 人流データ分析結果(概要)

25

広域連携(長崎市から隣接市町への通勤)

【分析対象】長崎市民

【使用データ】2024年(平日)

■ 長崎市から諫早市への通勤者は増加傾向

【国勢調査：長崎市と隣接市町の通勤状況】

出典：国勢調査

居住地	勤務地	15歳以上通勤者数(人)					
		平成22年		平成27年		令和2年	
			増減率(対H22)		増減率(対H22)		増減率(対H22)
長崎市	諫早市	5,608	—	5,661	0.95%	6,417	14.4%
	時津町	5,284	—	5,331	0.89%	5,262	0.42%
	長与町	2,527	—	2,427	▲3.96%	2,522	▲0.20%

■ 諫早市通勤者の主な勤務エリアは、諫早インターチェンジ南側工業団地

【主な勤務エリア】

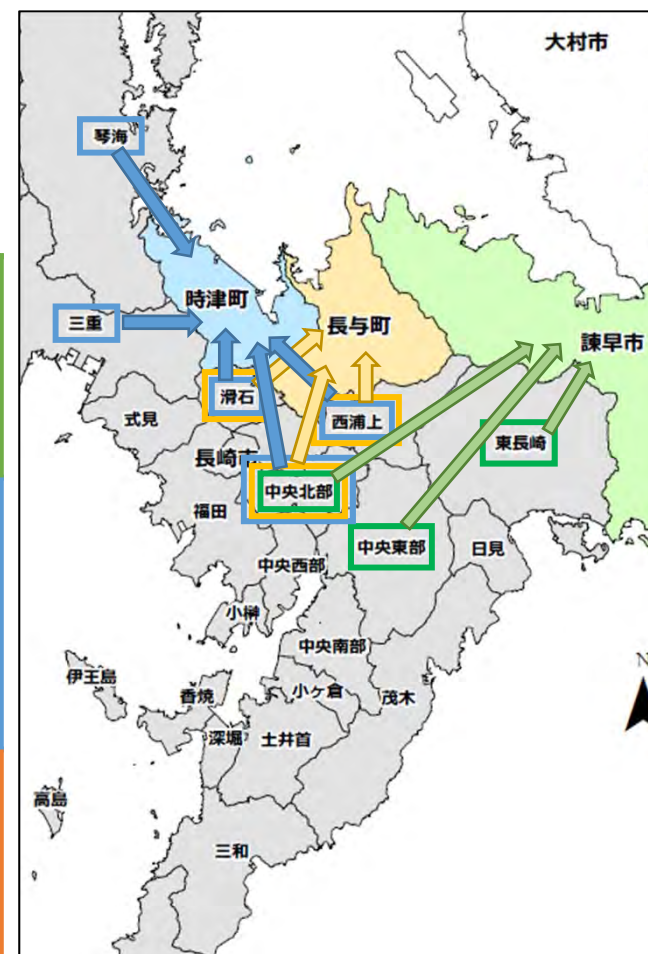
<諫早市>			<時津町>			<長与町>		
No	主な勤務エリア	勤務者数割合※	No	主な勤務エリア	勤務者数割合※	No	主な勤務エリア	勤務者数割合※
1	諫早IC南側工業団地	27.5%	1	三菱電機、七工区工業団地	17.3%	1	イオンタウン長与、高田駅周辺	16.2%
2	アクロスプラザ周辺	8.3%	2	10工区商業施設集積地	15.0%	2	長崎商業、長崎高等技術専門校周辺	10.0%
3	西諫早産業団地	2.7%	3	イオン時津店周辺	12.0%	3	天満宮バス停周辺	5.5%
			4	協和電機工業周辺	6.2%			

※各勤務エリア内の勤務者数÷長崎市からの勤務者の総数

- 諫早市勤務者は、主に「東長崎、中央北部、中央東部」
- 時津町勤務者は、主に「中央北部、西浦上、滑石、三重、琴海」
- 長与町勤務者は、主に「中央北部、西浦上、滑石」に居住

【主な居住エリア】

主な勤務エリア		居住者数の割合※							
		中央地域		北部地域				東部地域	その他
		中央東部	中央北部	西浦上	滑石	三重	琴海	東長崎	
諫早市	諫早IC南側工業団地	12.8 %	13.1 %	5.2 %	5.5 %	4.3 %	0.6 %	36.6 %	21.9 %
	アクロスプラザ周辺								
	西諫早産業団地								
時津町	三菱電機、七工区工業団地	3.0 %	15.2 %	23.0 %	10.1 %	11.0 %	15.1 %	2.7 %	19.9 %
	10工区商業施設集積地								
	イオン時津店周辺								
	協和電機工業周辺								
長与町	イオンタウン長与、高田駅周辺	3.1 %	20.6 %	36.5 %	26.2 %	3.0 %	5.9 %	1.7 %	3.0 %
	長崎商業、長崎高等技術専門学校周辺								
	天満宮バス停周辺								



※地区別居住者数÷長崎市からの勤務者の総数

■ 主な通勤手段は「車・バス」で、通勤時間は「20分以内」が多い

【通勤手段（主な居住エリア⇒主な勤務エリア）】

主な居住エリア		通勤手段の割合※											
		<諫早市>				<時津町>				<長与町>			
		<div> ・諫早IC南側工業団地 ・アクロスプラザ周辺 ・西諫早産業団地 </div>				<div> ・三菱電機、七工区工業団地 ・10工区商業施設集積地 ・イオン時津店周辺 ・協和電機工業周辺 </div>				<div> ・イオンタウン長与、高田駅周辺 ・長崎商業、長崎高等技術専門学校周辺 ・天満宮バス停周辺 </div>			
		車・バス	鉄道	徒歩	自転車等	車・バス	鉄道	徒歩	自転車等	車・バス	鉄道	徒歩	自転車等
中央地域	中央東部	95.4%	4.6%	0.0%	0.0%	略				略			
	中央北部	100%	0.0%	0.0%	0.0%	66.0%	28.2%	5.5%	0.3%	72.6%	27.4%	0.0%	0.0%
北部地域	西浦上	略				92.7%	5.2%	2.0%	0.0%	71.4%	5.8%	22.8%	0.0%
	滑石					93.3%	0.0%	6.7%	0.0%	86.6%	3.8%	9.1%	0.5%
	三重					100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	略			
	琴海					97.9%	0.0%	0.0%	2.1%				
東部地域	東長崎	99.7%	0.0%	0.0%	0.3%	略							

※通勤手段別勤務者数÷長崎市からの勤務者の総数

【通勤時間（主な居住エリア⇒主な勤務エリア）※通勤手段：車・バスの場合】

主な居住エリア		通勤時間の割合※											
		0-10分	11-20分	21-30分	31分以上	0-10分	11-20分	21-30分	31分以上	0-10分	11-20分	21-30分	31分以上
中央地域	中央東部	0.0%	90.3%	9.7%	0.0%	略				略			
	中央北部	1%	50.4%	48.9%	0.0%	0.0%	85.9%	14.1%	0.0%	51.9%	48.1%	0.0%	0.0%
北部地域	西浦上	略				25.2%	72.3%	2.5%	0.0%	90.3%	9.7%	0.0%	0.0%
	滑石					30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	三重					0.0%	78.1%	21.9%	0.0%	略			
	琴海					28.6%	58.3%	13.1%	0.0%				
東部地域	東長崎	31.8%	67.9%	0.3%	0.0%	略							

※通勤時間別勤務者数÷長崎市からの勤務者の総数

広域連携(観光) 【分析対象】 県外居住者 【使用データ】 2019年、2024年(休日)

- 県外居住者の主な滞在観光地は「ハウステンボス」
- ハウステンボス訪問者の長崎市訪問率は10%前後

【長崎県内の主要観光地別訪問人数・訪問割合(長崎市除く)】

市町名	観光地名	2019年(休日)			2024年(休日)		
		訪問人数 (人) A	訪問割合	左記観光地訪問者の長崎市 訪問率B(A*B)	訪問人数 (人) A	訪問割合	左記観光地訪問者の長崎市 訪問率B(A*B)
佐世保市	ハウステンボス	1,918	61.3%	7.3% (140人)	1,234	57.5%	10.5% (130人)
雲仙市	雲仙温泉	351	11.2%	15.1% (53人)	250	11.6%	20.0% (50人)
	小浜温泉	129	4.1%	13.2% (17人)	120	5.6%	17.5% (21人)
その他県内 主要観光地		730	23.3%	—	542	25.3%	—
総数		3,128	100%		2,146	100%	

都心部

日常生活

回遊環境の向上

都心部内の回遊・滞在促進

経済再生

定住促進

<分析ターゲット>

長崎市民で「都心部を日常生活（買物・通院等）のため移動する者」

⇒性別・年代別に、移動経路・移動手段・移動目的・滞在時間等を分析

観光

回遊環境の向上

都心部内の回遊・滞在促進

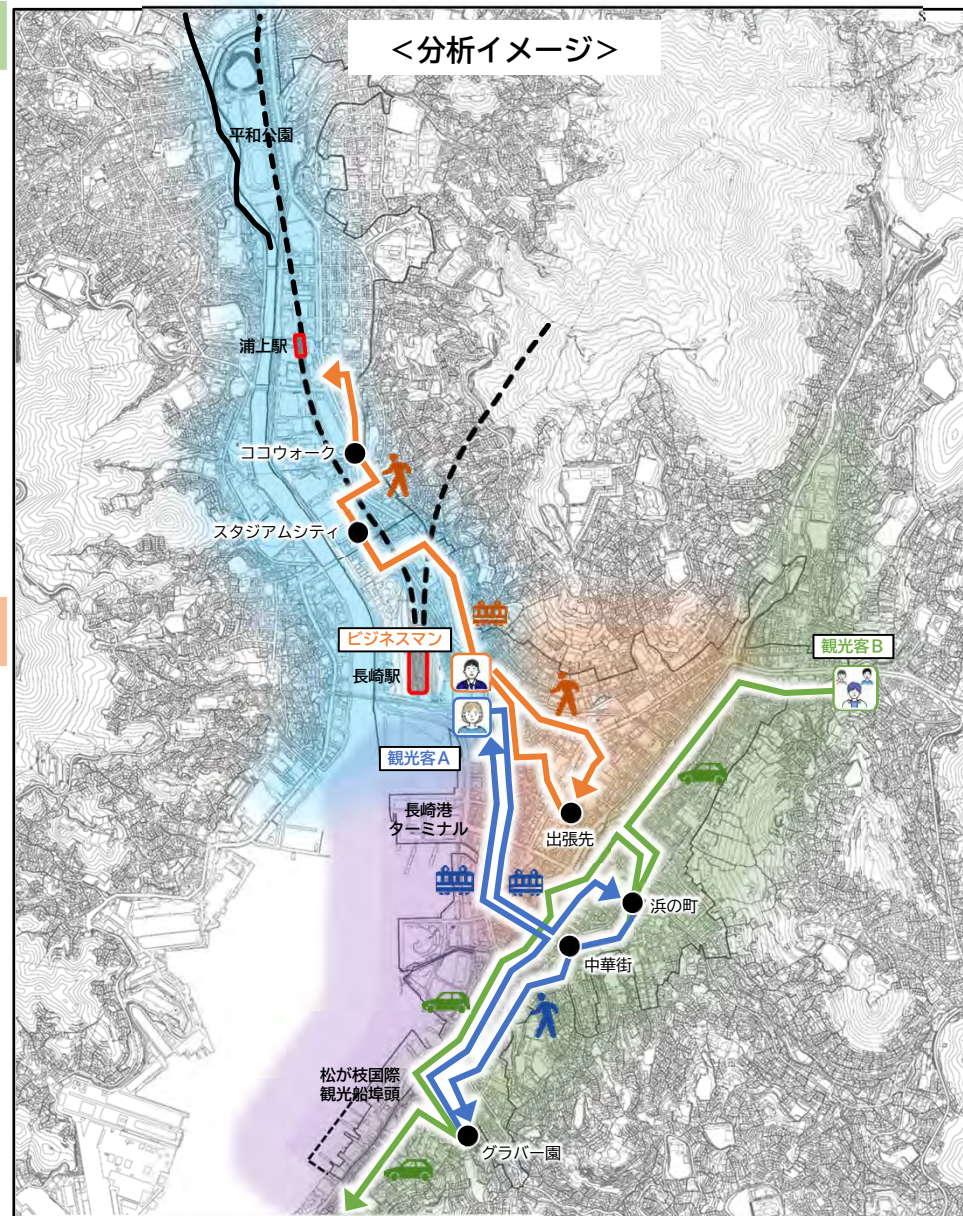
経済再生

<分析ターゲット>

県外居住者で「長崎市都心部を訪れた者」

⇒居住地・性別・年代別に、移動経路・移動手段・滞在時間等を分析

<分析イメージ>



都心部(日常生活)

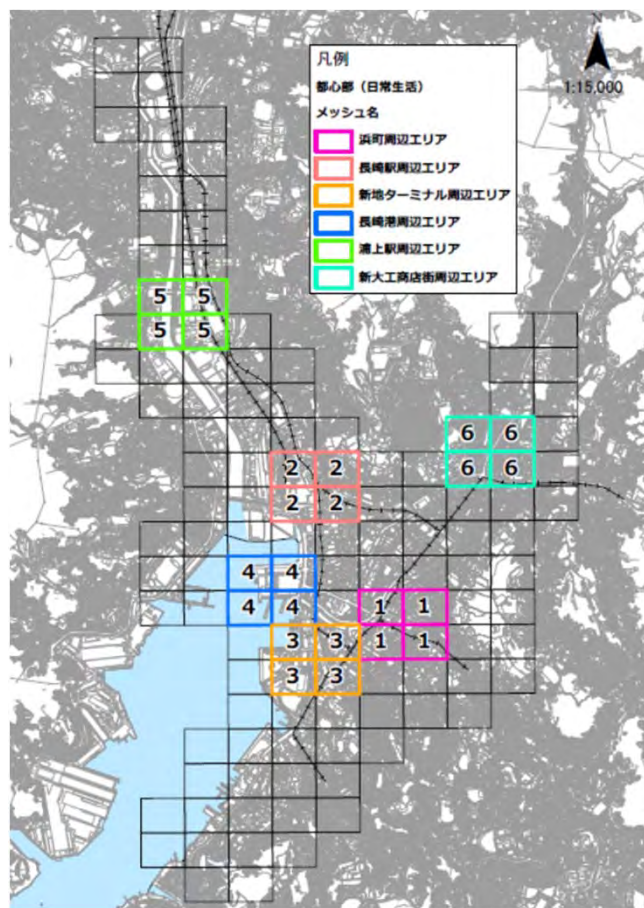
【分析対象】長崎市民

【使用データ】2019年、2024年（平日・休日）

■ 主要滞在エリア

「浜町周辺」「長崎駅周辺」「新地ターミナル周辺」「長崎港周辺」
「浦上駅周辺」「新大工商店街周辺」

【主要滞在エリア（2024年休日）】



No	主な滞在エリア	滞在割合※
1	浜町周辺	19.2%
2	長崎駅周辺	12.0%
3	新地ターミナル周辺	7.6%
4	長崎港周辺	6.3%
5	浦上駅周辺	4.8%
6	新大工商店街周辺	4.3%

※エリア内に15分以上滞在した回数÷都心部内に15分以上滞在した回数

■ 浜町周辺の滞在割合※は減少傾向で、長崎駅周辺は増加傾向

【年代別－滞在割合（2024年と2019年の差分）】

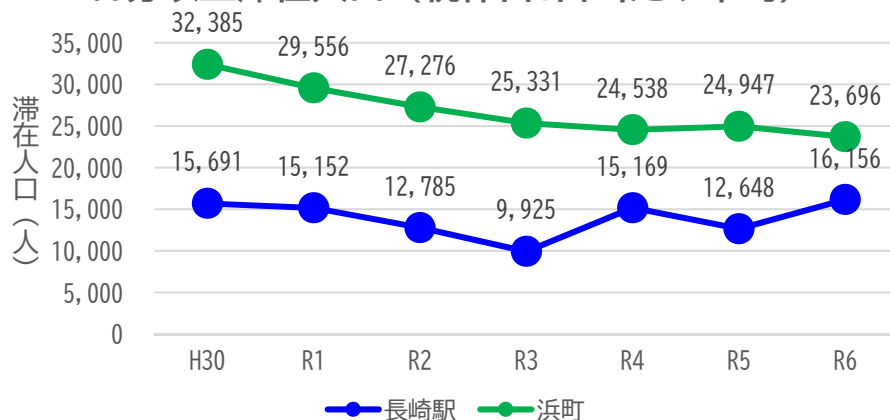
単位：％

主な滞在エリア	平日						休日					
	全年代	20代	30代	40代	50代	60代以上	全年代	20代	30代	40代	50代	60代以上
浜町周辺	▲4.0	▲10.8	▲8.3	▲1.1	▲3.7	▲1.0	▲3.9	▲11.1	▲11.6	▲3.5	▲7.9	▲0.7
長崎駅周辺	3.9	12.5	6.1	0.8	2.7	1.6	1.3	7.0	4.3	▲0.7	0.7	▲2.0
新地ターミナル周辺	0.7	2.7	▲1.4	▲1.2	▲0.1	1.5	1.9	2.3	0.7	1.9	3.0	1.3
長崎港周辺	0.0	▲0.7	▲1.4	▲1.5	0.5	0.9	▲2.9	▲5.0	▲5.8	▲4.8	▲2.1	▲1.5
浦上駅周辺	0.1	▲2.3	▲0.7	1.8	0.5	0.6	▲1.8	▲3.9	▲3.8	▲0.9	▲0.8	▲0.3
新大工商店街周辺	▲0.1	▲1.8	0.9	0.3	▲1.0	0.8	0.7	▲1.0	0.7	0.9	0.2	2.4

※エリア内に15分以上滞在した回数÷都心部内に15分以上滞在した回数

■ 浜町周辺の60分以上滞在人口は減少傾向、長崎駅周辺は増加傾向

60分以上滞在人口（祝休日1日当たり平均）



※KDDI Location Analyzerで算出

■ 都心部内における滞在回数は減少傾向

【都心部内における滞在回数の割合※推移】

滞在回数	平日			休日		
	2019年	2024年	差	2019年	2024年	差
1回	100.0%	100.0%	—	100.0%	100.0%	—
2回	32.6%	30.2%	▲2.4%	36.0%	31.0%	▲5.0%
3回	12.5%	11.1%	▲1.4%	14.6%	11.6%	▲3.0%
4回	4.5%	4.0%	▲0.5%	5.5%	4.1%	▲1.4%
5回	1.5%	1.4%	▲0.1%	1.8%	1.3%	▲0.5%

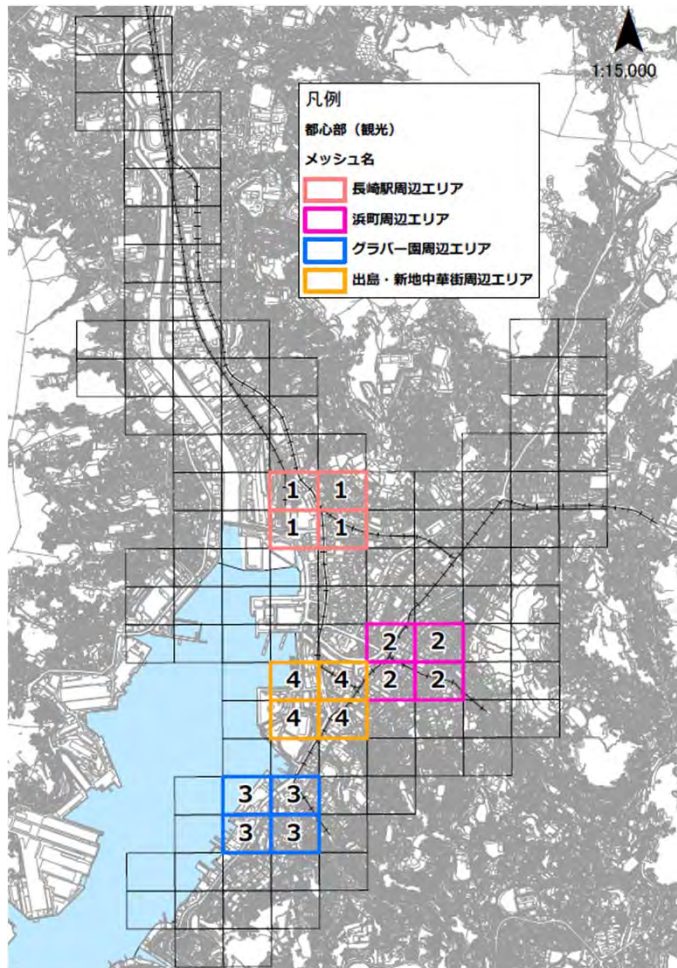
※都心部滞在回数÷都心部訪問人数

都心部(観光) 【分析対象】 県外居住者 【使用データ】 2019年、2024年(休日)

■ 主要滞在エリア

「長崎駅周辺」 「浜町周辺」 「グラバー園周辺」 「出島・新地中華街周辺」

【主要滞在エリア(2024年休日)】



No	主な滞在エリア	訪問者数割合※
1	長崎駅周辺	21.4%
2	浜町周辺	17.4%
3	グラバー園周辺	6.9%
4	出島・新地中華街周辺	5.1%

※エリア内に15分以上滞在した回数÷都心部内に15分以上滞在した回数

■ 長崎駅周辺以外は滞在割合※が減少傾向

【滞在割合の比較】

主な滞在エリア	平日			休日		
	2019年	2024年	差	2019年	2024年	差
長崎駅周辺	13.9%	22.3%	8.4%	12.7%	21.4%	8.7%
浜町周辺	17.9%	16.9%	▲1.0%	18.2%	17.4%	▲0.8%
グラバー園周辺	8.7%	5.4%	▲3.3%	10.3%	6.9%	▲3.4%
出島・新地中華街周辺	7.5%	5.3%	▲2.2%	6.0%	5.1%	▲0.9%

※エリア内に15分以上滞在した回数÷都心部内に15分以上滞在した回数

■ 県外居住者の都心部内における滞在回数は減少傾向

【都心部内における滞在回数の割合※推移】

滞在回数	平日			休日		
	2019年	2024年	差	2019年	2024年	差
1回	100.0%	100.0%	—	100.0%	100.0%	—
2回	44.8%	44.0%	▲0.8%	51.1%	47.5%	▲4.0%
3回	18.7%	17.1%	▲1.6%	24.6%	20.7%	▲3.9%
4回	6.8%	6.2%	▲0.6%	11.2%	8.4%	▲2.8%
5回	2.2%	1.9%	▲0.3%	4.7%	3.1%	▲1.6%

※都心部滞在回数÷都心部訪問人数

都心部と周辺部のつながり

通勤

通勤環境の向上

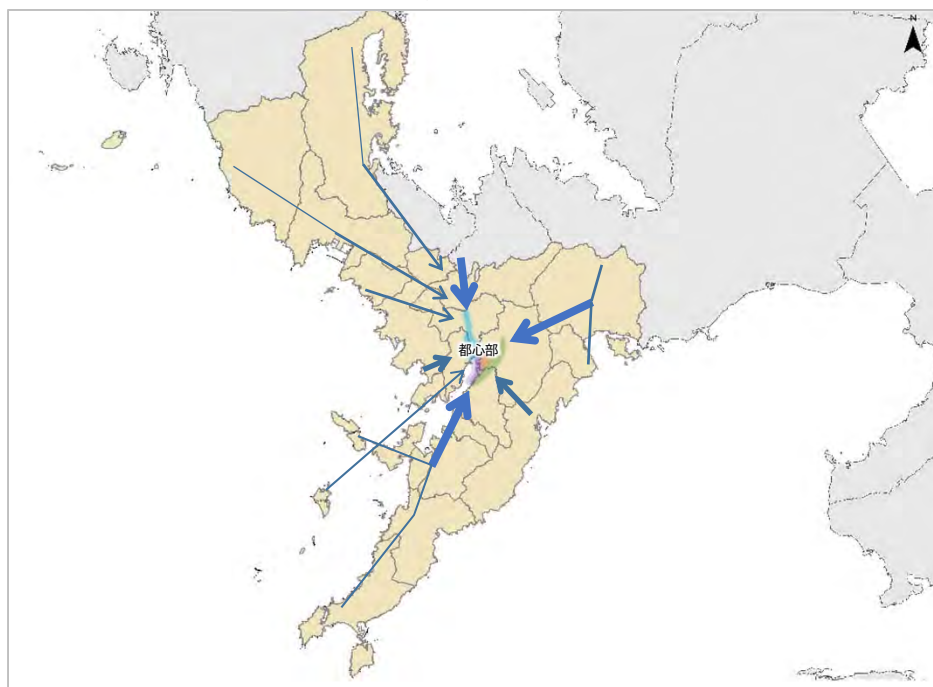
居住地として継続・選択

定住促進

<分析のターゲット>

長崎市民で「都心部に通勤する者」

<分析イメージ>



⇒居住地・年代別に、勤務地までの移動経路・移動手段・移動時間等を分析

観光

回遊環境の向上

周辺部への回遊・滞在促進

経済再生

<分析ターゲット>

県外居住者で「市内の主要観光地を周遊した者」

<分析イメージ>

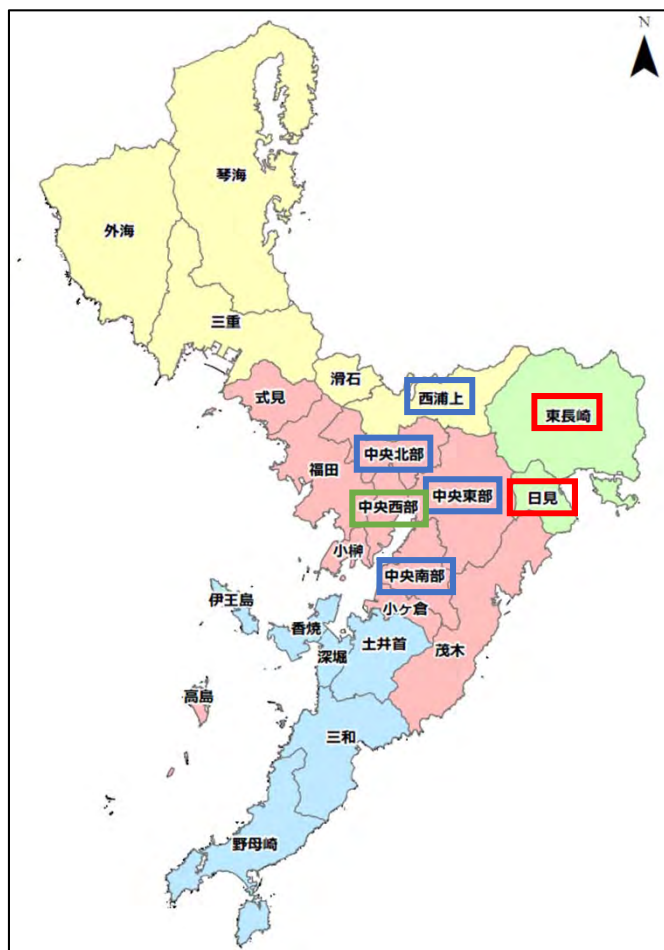


⇒居住地・性別・年代別に、周遊ルート・移動手段・滞在時間等を分析

都心部と周辺部のつながり(通勤) 【分析対象】長崎市民、都心部通勤者【使用データ】2019・2024年(平日)

- 都心部通勤者は、主に「中央東部・南部・北部」「西浦上地区」に居住
- 中央西部地区は、都心部に近いものの、通勤者数の割合は高くない
- 東部地域の都心部通勤者の減少傾向が強い

【都心部通勤者の居住地】



地域	地区	2019年 (平日)		2024年 (平日)		差 (2024年-2019年)
		通勤者数(人)		通勤者数(人)		
			割合		割合	
中央	中央東部	8,116	31.0%	7,776	31.2%	0.2%
	中央西部	1,209	4.6%	1,699	6.8%	2.2%
	中央南部	3,931	15.0%	3,536	14.2%	▲0.8%
	中央北部	3,641	13.9%	3,556	14.3%	0.4%
	その他	1,502	5.7%	1,560	6.3%	0.6%
	小計	18,399	70.3%	18,127	72.8%	2.5%
東部	東長崎地区	1,726	6.6%	1,093	4.4%	▲2.2%
	日見地区	497	1.9%	231	0.9%	▲1.0%
	小計	2,223	8.5%	1,324	5.3%	▲3.2%
南部	土井首地区	578	2.2%	778	3.1%	0.9%
	三和地区	325	1.2%	426	1.7%	0.5%
	その他	252	1.0%	417	1.7%	0.7%
	小計	1,155	4.4%	1,621	6.5%	2.1%
北部	西浦上	2,916	11.1%	2,273	9.1%	▲2.0%
	滑石	993	3.8%	969	3.9%	0.1%
	その他	501	1.9%	597	2.4%	0.5%
	小計	4,410	16.8%	3,839	15.4%	▲1.4%
合計		26,187	100%	24,911	100%	—

地域拠点・生活地区内

日常生活

日常生活の利便性向上

居住地として選択・継続

定住促進

<分析のターゲット>

地域拠点や生活地区周辺居住者で「日常生活（買物・通院等）のため移動する者」

<分析のイメージ>

地域拠点・生活地区周辺居住者の移動特性把握



⇒居住地・性別・年代別に、移動経路・移動手段・移動目的等进行分析

斜面地

日常生活

日常生活の利便性向上

斜面地の魅力を活かしたゆとりある居住環境

定住促進

<分析のターゲット>

斜面市街地居住者で「日常生活（買物・通院等）のため移動する者」

<分析のイメージ>

斜面市街地居住者の移動特性把握

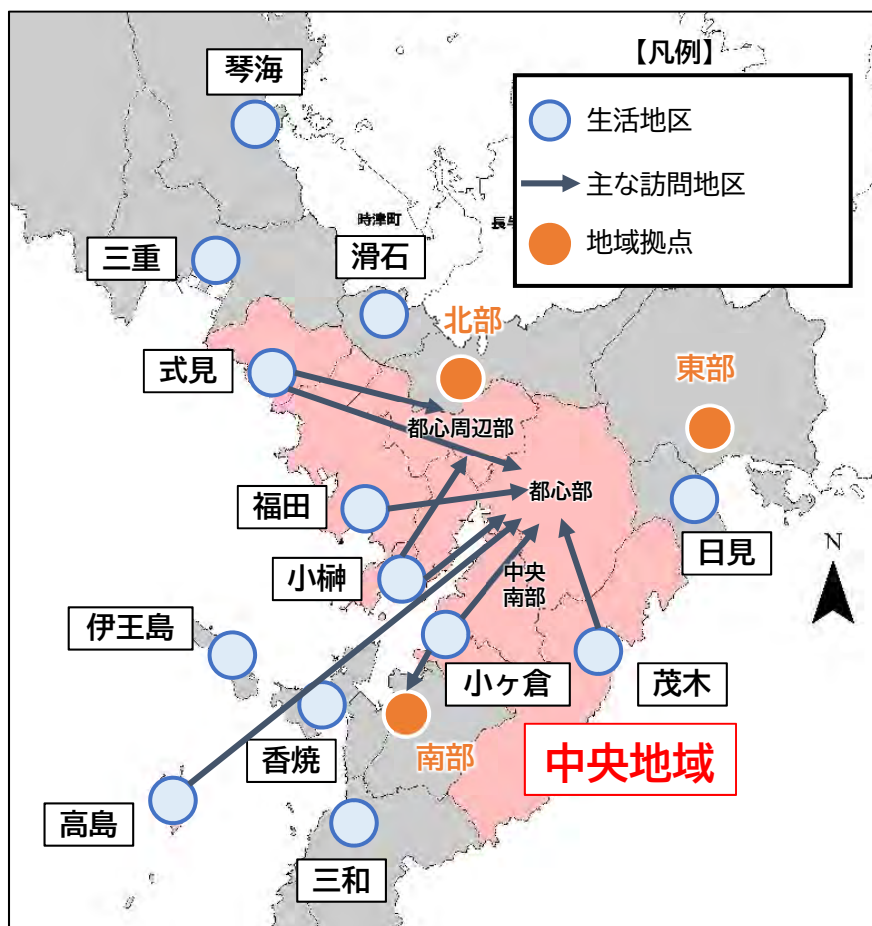


⇒居住地・性別・年代別に、移動経路・移動手段・移動目的等进行分析

キ 地域拠点・生活地区(日常生活) 【分析対象】長崎市民 【使用データ】2024年(休日)

■ 居住生活地区以外では、主に「都心部」「都心周辺部」で生活サービス(買い物・医療等)を享受

【居住生活地区以外で、買い物・通院等のために訪問する主な地区(中央地域内の生活地区居住者)】

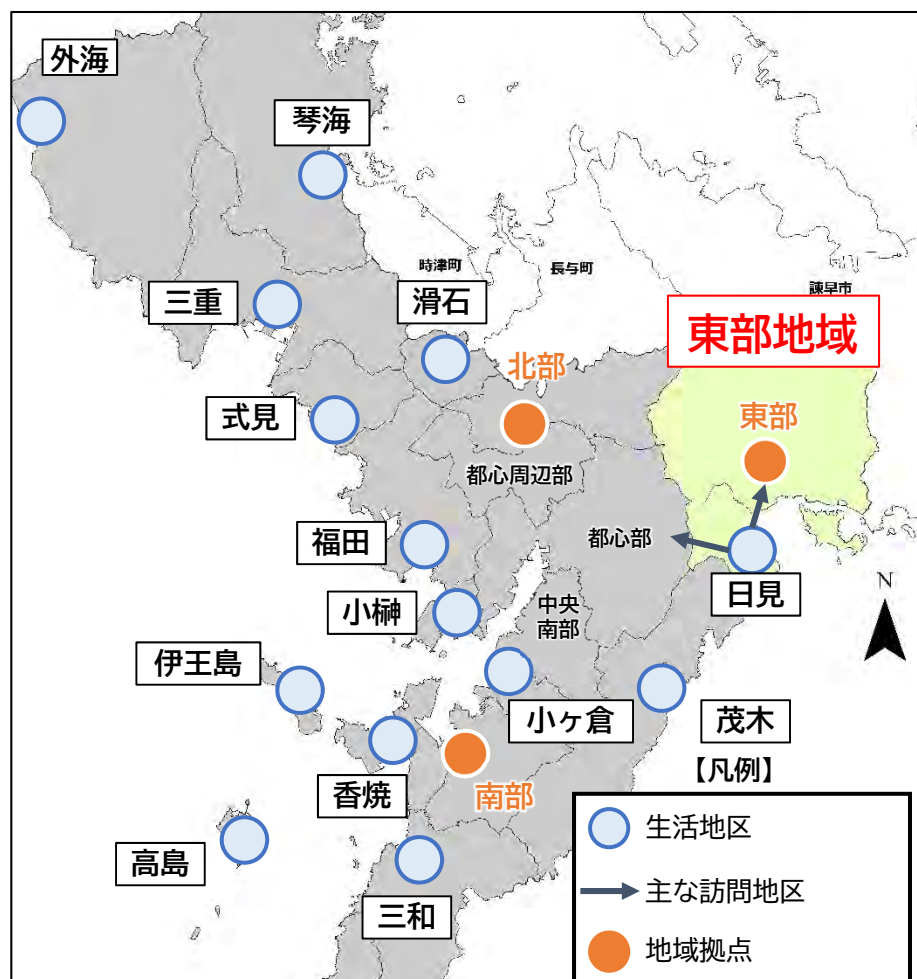


居住地区	主な訪問地区	
		到着割合※
式見	中央東部	13.6%
	中央北部	12.6%
福田	中央東部	17.4%
小ヶ倉	中央東部	18.5%
	中央北部	11.6%
小ヶ倉	中央東部	22.6%
	土井首+深堀	16.4%
茂木	中央東部	27.0%
高島	中央東部	12.1%

※買い物・通院等目的で訪問地区に滞在した回数÷買い物・通院等目的で市内に滞在した総回数。到達割合が10%を超える地区を記載。

- 居住生活地区以外では、主に「東部地域拠点」「都心部」で生活サービスを（買い物・医療等）を享受

【居住生活地区以外で、買い物・通院等のために訪問する主な地区（東部地域内の生活地区居住者）】

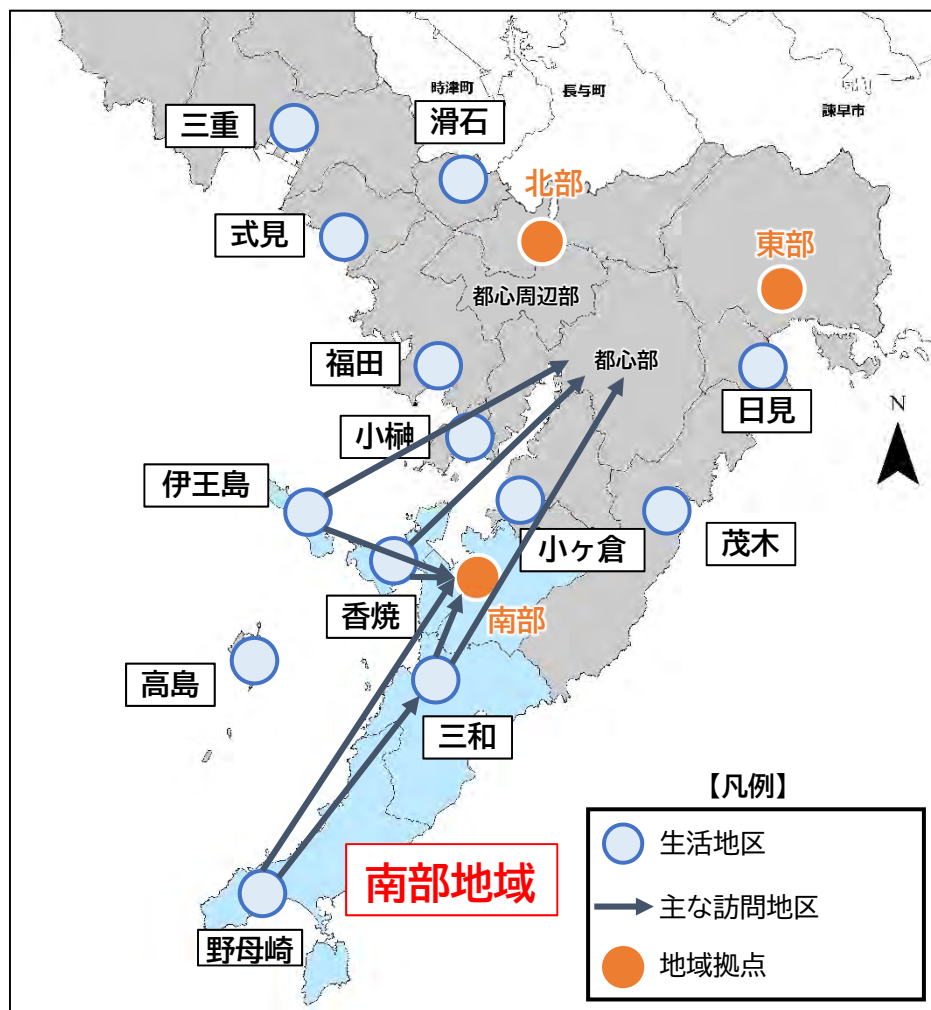


居住地区	主な訪問地区	
	到着割合	
日見	東長崎	30.7%
	中央東部	12.6%

※買い物・通院等目的で訪問地区に滞在した回数÷買い物・通院等目的で市内に滞在した総回数。到達割合が10%を超える地区を記載。

- 居住生活地区以外では、主に「南部地域拠点」「都心部」で生活サービスを（買い物・医療等）を享受

【居住生活地区以外で、買い物・通院等のために訪問する主な地区（南部地域内の生活地区居住者）】

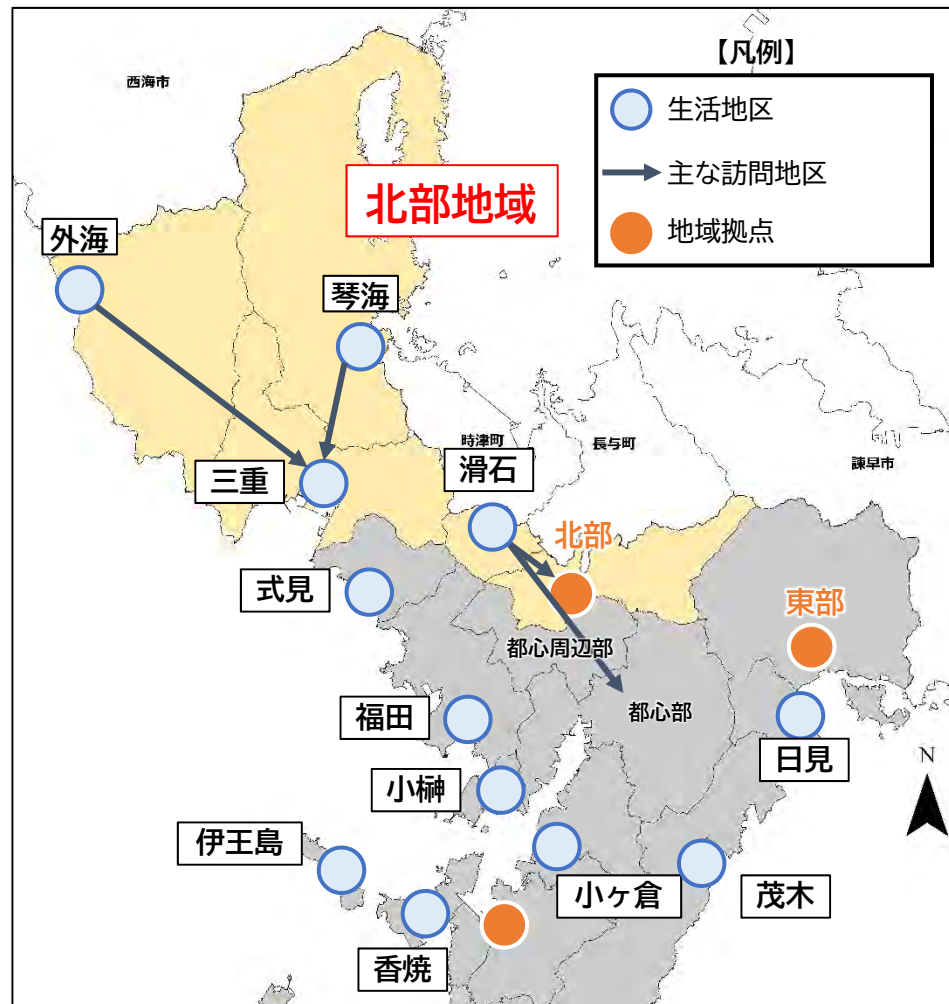


居住地区	主な訪問地区	
		到着割合
香焼	土井首＋深堀	30.7%
	中央東部	12.6%
伊王島	中央東部	17.5%
	土井首＋深堀	12.1%
三和	土井首＋深堀	22.6%
	中央東部	11.7%
野母崎	土井首＋深堀	15.4%
	三和	14.8%

※買い物・通院等目的で訪問地区に滞在した回数÷買い物・通院等目的で市内に滞在した総回数。到達割合が10%を超える地区を記載。

- 外海・琴海地区居住者は、居住生活地区以外では、主に「三重地区」で生活サービスを（買い物・医療等）を享受

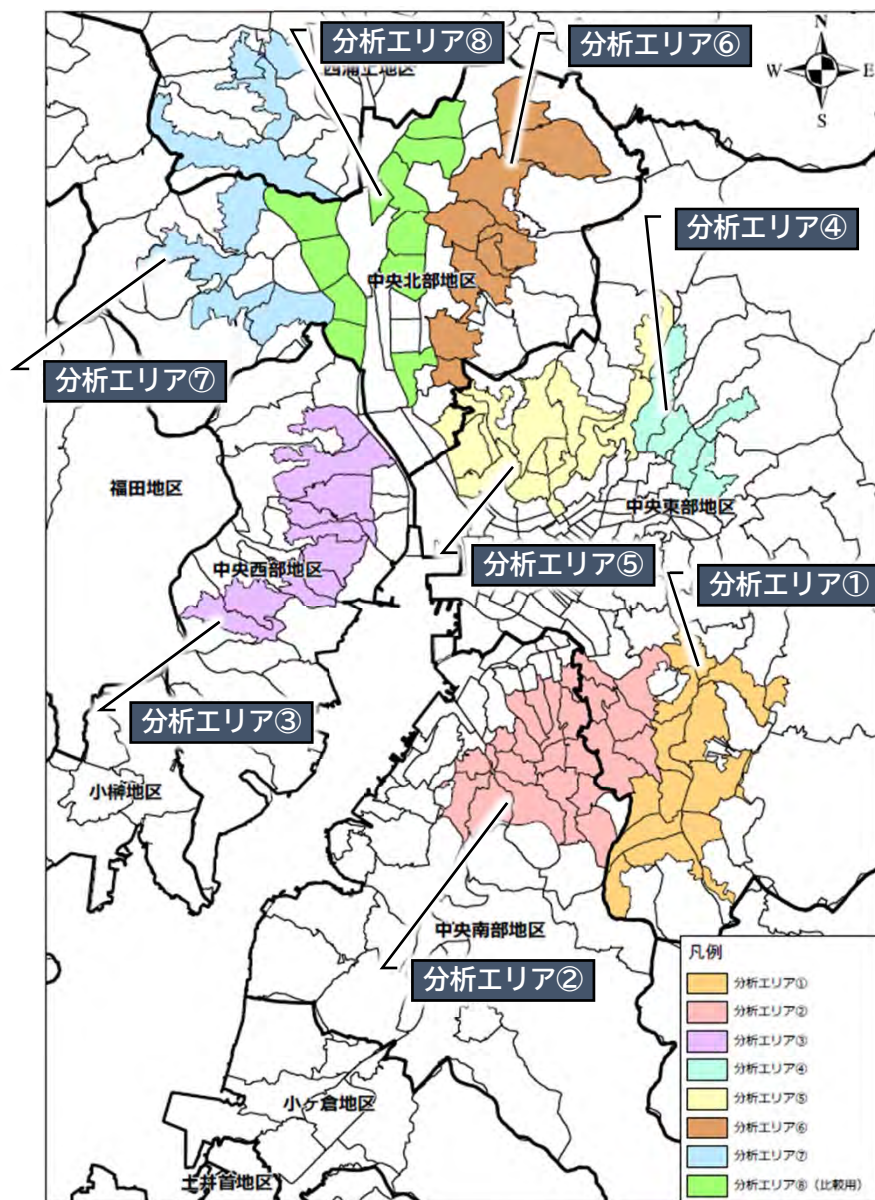
【居住生活地区以外で、買い物・通院等のために訪問する主な地区（南部地域内の生活地区居住者）】



居住地区	主な訪問地区	
		到着割合
滑石	西浦上	11.6%
	中央東部	10.4%
琴海	三重	14.3%
外海	三重	29.2%

※買い物・通院等目的で訪問地区に滞在した回数÷買い物・通院等目的で市内に滞在した総回数。到達割合が10%を超える地区を記載。

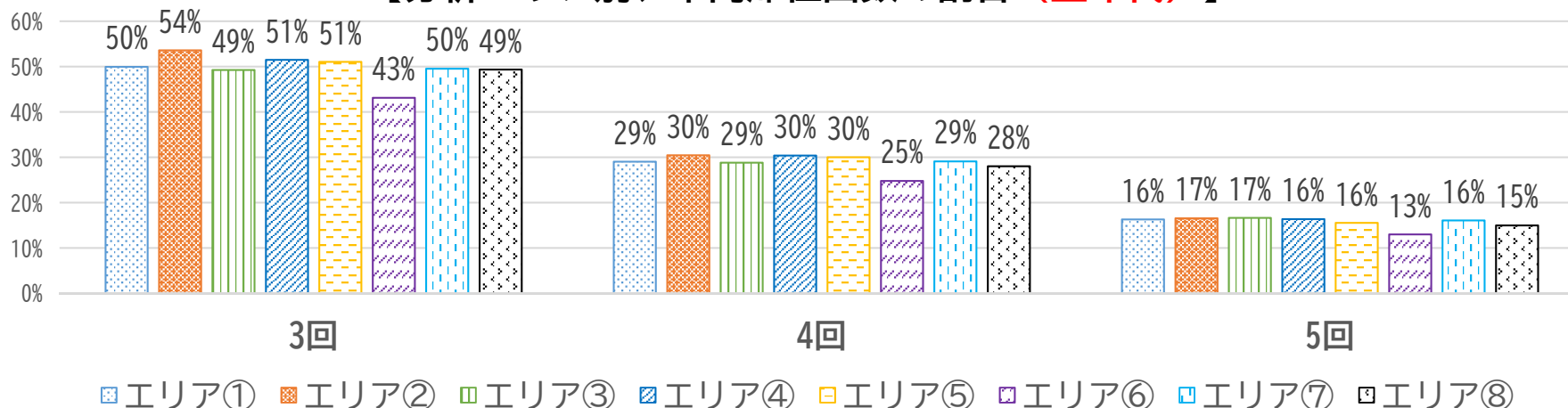
ク 斜面地(日常生活) 【分析対象】各分析エリア居住者 【使用データ】2024年(休日)



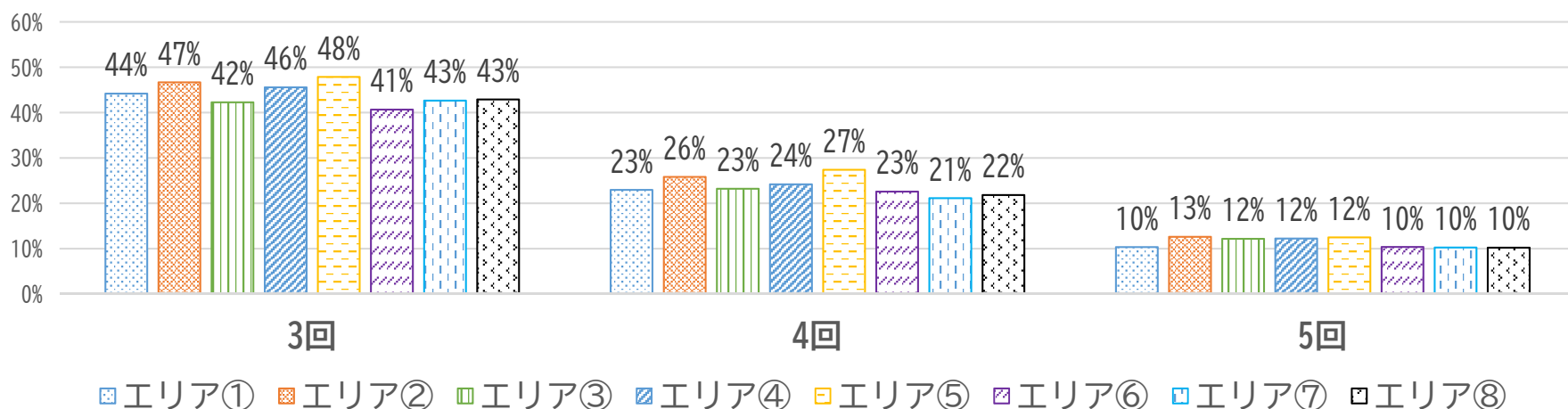
エリア	エリア概要
①	幅員4 m以上の道路が占める割合が高いエリア
②	①に隣接し、①と比べ幅員4 m以上の道路が占める割合が低く、人口減少率も大きいエリア
③	人口減少・高齢化が著しいエリア
④	幅員4 m以上の道路が占める割合が低く、公共交通カバー面積割合も低いエリア
⑤	
⑥	北部の斜面市街地のうち、幅員4 m以上の道路が占める割合が低いエリア
⑦	⑥と比べ幅員4 m以上の道路が占める割合が高いエリア
⑧	平坦地に近いエリア（比較用）

■ 分析エリアごとに、市内の滞在回数の割合※を算出したが、大きな違いは見られない

【分析エリア別、市内滞在回数の割合（全年代）】



【分析エリア別、市内滞在回数の割合（年齢60代以上）】



※滞在回数÷分析エリア内居住者の外出人数